

研究報告書第42号

F 8 -01

中学校における学級担任を中心とした学業指導の進め方

1987・3

山形県教育センター

研究報告書第 42 号 (昭和 62 年 3 月刊)

中学校における学級担任を中心とした学業指導の進め方

山形県教育センター

目 次

- I 研究の趣旨とねらい
 - 1. 研究のねらい
 - 2. 研究の趣旨
- II 研究の進め方
- III 研究の内容
 - 1. 学業指導の基本的な考え方
 - (1) 学業指導の現状と課題
 - (2) 学校の教育活動全体をとおして行う学業指導
 - (3) 学級指導における学業指導
 - ① 学業指導の役割
 - ② 学業指導の内容
 - ③ 指導にあたっての基本的な態度と留意事項
 - (4) 学級指導以外における学業指導
 - 2. 学級指導における学業指導の進め方
 - (1) 指導過程の工夫
 - (2) 資料の活用と選定
 - (3) 年間指導計画
 - (4) 学業指導の指導事例
 - 3. 学級指導以外における学業指導の進め方
 - (1) 学級担任による学業指導
 - (2) 教科担任による学業指導
 - (3) 学級担任と教科担任・学年担当・養護教諭等との連携と協調
 - 4. 学級指導における学業指導の年間指導計画 (例) と指導過程 (例)
 - (1) 学業指導の年間指導計画 (例)
 - (2) 学業指導の指導過程 (例)
 - 5. 学業指導の実践事例
 - (1) 家庭学習の指導をとおして学習習慣を身につけさせた指導
 - (2) 学級の雰囲気づくりをとおして学習意欲を高めた指導
 - (3) 進路をふまえて学習の意義や目的を理解させ、学習意欲を高めた指導
 - (4) 面接による学業相談
 - (5) がんばっても成績が向上しない生徒の指導
 - (6) 学年全体で取り組む学業指導 (学級担任と教科担任との連携を中心として)
- IV 研究のまとめと今後の課題
 - 1. 研究のまとめ
 - 2. 今後の課題

研 究 の 概 要

1 研究の趣旨とねらい

生徒に、学業に対する自発的な努力が欠ける傾向が見受けられ、したがって生徒の学習意欲を高めていく必要があることから、最近学業指導の重要性が強調されてきている。昨年、中学生の学業生活や教師の学業指導について、それぞれの実態を調査し、中学校における学業指導上の問題点をとらえた。生徒を意欲的に学習に取り組ませ、学習習慣を身につけさせる指導、学級の学習環境づくりや学業指導の計画づくりと実施、学級担任と教科担任との連携や個別指導など、様々な学業指導上の問題点に苦慮しながら学業指導を進めている教師の姿をうかがうことができた。

そこで、本研究は、学級指導の中で学業指導をどのように進めていけばよいか、また、日々の様々な場面で学業指導をどのように進めていけばよいか、中学校における学級担任を中心とした学業指導の望ましい進め方を明らかにしようとするものである。

2 研究の進め方

- (1) 年間指導計画(例)、指導過程(例)等を作成し、学級指導の中で行う学業指導の進め方を明らかにする。
- (2) 学業指導の実践事例とその考察をもとに、学級担任を中心とした学業指導の進め方を明らかにする。

3 研究の内容

- (1) 学校の教育活動全体をとおして行う学業指導の全体構造をとらえ、学級担任が行う学業指導の場や内容等について検討し、まとめた。
- (2) 学級指導の中で行う学業指導を計画的に進めていくにはどうすればよいかについて考察し、中学校の各学年の年間指導計画(例)を作成した。また、学業指導の授業の効果を高めていくために、指導段階に工夫を加えた指導過程(例)、指導案(例)を作成した。
- (3) 前年度調査によってとらえた生徒の学業上の特に顕著な問題点を把握し、学業指導の実践研究を行った。その実践事例と考察をとおして、日々の様々な場面で、中学校における学級担任等が学業指導をどのように進めていけばよいかを明らかにし、まとめた。

4 今後の課題

- (1) 学級担任を中心とした学業指導の進め方を明らかにしてきたが、今後さらに、緊密な協力体制のもとにすべての教師による学校全体での学業指導をどのように進めていけばよいかを明らかにしていく必要がある。
- (2) 生徒の学校生活の中に大きな時間を占める教科の授業を重視し、その中で学業指導をどう進めていけばよいかを明らかにしていく必要がある。
- (3) このたび示した学業指導の指導事例は限られているので、今後、もっと多様な事例を分析して、生徒の実態や問題に応じたきめ細かい指導方法を明らかにしていく必要がある。

は し が き

中学校の教育は、さまざまな能力や性格を持つ生徒を対象とするので、学業上のつまずきや不適応を持つ生徒も少なくない。この解消を図るための指導が必要であり、また、学習の心がまえや学習方法の改善、積極的で意欲的な学習態度などを育成する指導が必要である。その際、どのようなことに留意して、計画的、組織的な指導を進めていくかが、解決の重要な鍵となる。

これまでの学業指導は、学業不振、学業不適応児の治療的指導に重点を置いて指導することが多かったと思われる。しかし、学業指導の本来の意味からすれば、単に学業不振でめだった生徒だけを対象にするのではなく、すべての生徒を対象にして学業指導がなされなければならない。しかも、学業生活を充実させるために、現在よりもっと意欲的な学習態度や、一層効果的な学習方法を身につけさせるような開発的な考え方に立った指導が今こそ必要と思われる。

そこで、当教育センターでは、2か年計画で学業指導に関する研究に取り組み、第1年次では「中学校における学業指導の問題点と改善の視点」をまとめ、刊行した。本年度はその第2年次であり、昨年度の成果と課題をふまえて、実践研究をとおして「中学校における学級担任を中心とした学業指導の進め方」をまとめた。研究の進め方などに不備な点があると思われるが、教育実践の立場から厳しく、建設的に批判くださるとともに、私どもの意のあるところをくみ取っていただき、各学校における学業指導の資料として活用していただければ幸いである。

最後に、この研究にご協力いただいた学校ならびに研究協力者の方々に、心からお礼を申し上げる次第である。

昭和62年3月

山形県教育センター所長 金 森 武

目 次

I 研究の趣旨とねらい	1
1. 研究のねらい	1
2. 研究の趣旨	1
II 研究の進め方	2
III 研究の内容	3
1. 学業指導の基本的な考え方	3
(1) 学業指導の現状と課題	3
(2) 学校の教育活動全体をととして行う学業指導	3
(3) 学級指導における学業指導	4
① 学業指導の役割	4
② 学業指導の内容	4
③ 指導にあたっての基本的な態度と留意事項	5
(4) 学級指導以外における学業指導	5
2. 学級指導における学業指導の進め方	6
(1) 指導過程の工夫	7
(2) 資料の活用と選定	8
(3) 年間指導計画	8
(4) 学業指導の指導事例	8
3. 学級指導以外における学業指導の進め方	15
(1) 学級担任による学業指導	15
(2) 教科担任による学業指導	16
(3) 学級担任と教科担任・学年担当・養護教諭等との連携と協調	17
4. 学級指導における学業指導の年間指導計画(例)と指導過程(例)	18
(1) 学業指導の年間指導計画(例)	18
(2) 学業指導の指導過程(例)	21
5. 学業指導の実践事例	30
(1) 家庭学習の指導をととして学習習慣を身につけさせた指導	30
(2) 学級の雰囲気づくりをととして学習意欲を高めた指導	33
(3) 進路をふまえて学習の意義や目的を理解させ、学習意欲を高めた指導	36
(4) 面接による学業相談	40
(5) がんばっても成績が向上しない生徒の指導	44
(6) 学年全体で取り組む学業指導(学級担任と教科担任との連携を中心として)	47
IV 研究のまとめと今後の課題	52
1. 研究のまとめ	52
2. 今後の課題	53

研究担当者

指導主事	永 田 克 彦
"	梅 本 英 夫
"	高 橋 信 敬
"	佐 竹 清 一
"	黒 沼 利 昭

研究協力者

山形市立蔵王第一中学校教諭	菅 野 俊 雄
山形市立第六中学校教諭	荒 井 智 子
上市市立南中学校教諭	相 田 重 行
朝日町立朝日中学校教諭	佐 藤 廣 子
村山市立葉山中学校教諭	青 柳 圭 二
米沢市立第一中学校教諭	川 島 清

I 研究の趣旨とねらい

1 研究のねらい

中学校における学業指導の改善をはかるために、学業指導の実践事例をもとに、学級担任を中心とした学業指導の望ましい進め方を明らかにする。

2 研究の趣旨

このごろの中学校の生徒の中には、学校生活に満たされない気持ちをいだいたり、学校生活にうまく適応できない生徒が少なくない。そのことは、学業生活のうえで様々な問題や悩みをかかえていることや学業不適応と深くかかわっているように思われる。

適切な学業指導が行われ、学業上の適応が得られたとき、生徒は意欲的に充実した学校生活を送ることができるであろう。

学業指導の意義は、学校における教育活動の全体において、一人一人の生徒が意欲的に学習に取り組み、みずからの学業生活の改善と向上を図るよう援助・指導することにある。したがって、学業指導は多岐にわたる生徒指導の中にあってきわめて大切な部面を占めているものでもあるといえよう。

学業指導は従来から行われてきたのに、最近その重要性が強調されてきているのは何故だろうか。一般に、このごろの中学校の生徒には勉強はさせられるものというような受身の学習態度が見受けられ、学業に対する自発的な努力や創意工夫に欠ける傾向がみられる。一方、ややもすると、生徒に対して知識を一方的に注入することに急で、一人一人の生徒がみずからすすんで学業に取り組む態度を育てるといような面での指導が十分であるとはいえない傾向もみられる。学業指導が重視されてきている理由としては、このような中学校教育の現状に対する反省があるように思われる。

ところで、前年度、県内の中学校における学業指導の現状について調査研究を行ってきたが、そこでは、生徒を意欲的に学習に取り組ませる指導や生徒により良い学習習慣を身につけさせる指導、生徒が学習しやすい学級の学習環境づくりや学業指導の計画づくり、学級担任と教科担任との連携や個別指導の実施など、様々な学業指導上の問題点やそれに苦慮している教師の姿をうかがうことができた。

学業指導を効果的に進めていくには、もとより、学校における教育活動の全体にわたって、すべての教師が協力しながら指導にあたっていかなければならないことは言うまでもないが、上述した問題等の改善をはかるにあたって、とりわけ、学級担任の役割の重要性にかんがみ、学級担任を中心とした学業指導の進め方を考えていきたい。

そこで、本研究では、学級担任が学級指導の中で学業指導をどのように計画し進めていけばよいか、また、毎日の様々な場面での指導の中で学業指導をどのように進めていけばよいか、中学校における学級担任を中心とした学業指導の望ましい進め方を明らかにしようとするものである。

Ⅱ 研究の進め方

1 学校の教育活動全体を通して行う学業指導の全体構造をとらえ、学級担任が行う学業指導の場や内容等について検討する。

2 学級指導の中で行う学業指導の進め方を明らかにする。

- (1) 年間指導計画(例)を作成する。
- (2) 指導過程(例)を作成する。
- (3) 指導案を作成して、授業研究をとおして授業の進め方を確かめる。

3 学業指導の実践事例とその考察をとおして、学級担任を中心とした学業指導の進め方を究明する。

- (1) 前年度調査によってとらえた生徒の学業上の問題点を把握して、学業指導の実践研究を行う題目を選定する。
- (2) 実践研究事例の題目
 - ① 家庭学習の指導をとおして学習習慣を身につけさせた指導
 - ② 学級の雰囲気づくりをとおして学習意欲を高めた指導
 - ③ 進路をふまえて学習の意義や目的を理解させ、学習意欲を高めた指導
 - ④ 面接による学業相談
 - ⑤ がんばっても成績が向上しない生徒の指導
 - ⑥ 学年全体で取り組む学業指導(学級担任と教科担任との連携を中心として)
- (3) 研究協力者を依頼し、学業指導の実践研究を行う。
- (4) 実践事例に考察を加える。
- (5) 学級担任を中心とした学業指導の望ましい進め方についてまとめ、今後の課題をとらえる。

Ⅲ 研究の内容

1 学業指導の基本的な考え方

(1) 学業指導の現状と課題

前年度の調査研究により、県内の中学校における学業指導の現状と課題は、次のように要約できる。

- ① 現 状
 - (ア) 生徒を意欲的に学習に取り組ませるにはどうすればよいか、について悩んでいる教師が多い。
 - (イ) 生徒の学習態度の形成や学習しやすいような学級の雰囲気づくりについて苦慮している教師が多い。
 - (ウ) 学業指導について、学級担任と教科担任の役割意識や連携・協力が十分でないように思われる。
 - (エ) 個別指導を実施したいが、時間的な余裕がなく、思うにまかせないとしている教師が多い。
 - (オ) 学業指導の内容をどうとらえ、その内容をどう計画し、どう指導したらよいのか、について悩んでいる教師が多い。

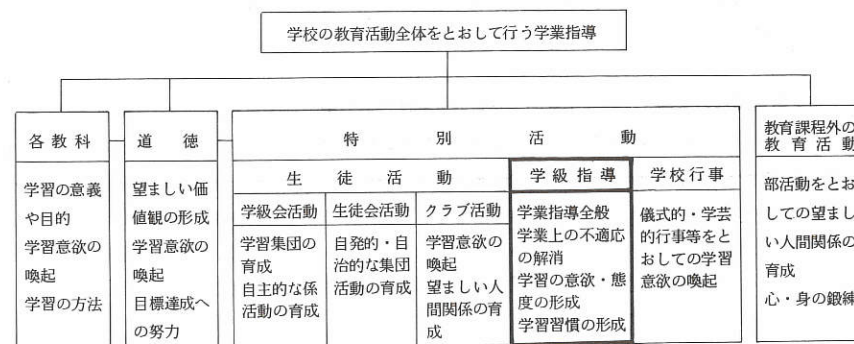
② 課 題

- (ア) 学業指導を効果的に行うために、学業指導の内容を整理し、それに基づいた指導計画を作成する必要がある。
- (イ) 学業指導の授業研究や事例研究をとおして、学業指導の具体的な進め方について検討していく必要がある。

(2) 学校の教育活動全体をとおして行う学業指導

学業指導とは「学校における教育活動の全体において、一人一人の生徒が意欲的に学習に取り組み、みずからの学業生活の改善と向上を図るよう援助・指導すること」である。(文部省 生徒指導資料第9集 中学校における学業指導に関する諸問題)したがって、学業指導は学校の全教師が生徒の能力・適性、興味・関心、性格などを把握して、互いに連携・協力しながら全体の指導や学業相談などの個別指導にあたらなければならない。

指導する場と内容を略記すると、次のようになるであろう。



(3) 学級指導における学業指導

① 学業指導の役割

学業指導は各教科、道徳、特別活動等とおして行われることは前述したとおりであるが、より計画的、効果的、組織的に行うために学級指導の時間が設けられている。この時間においては、学級担任は生徒の学業指導全般について、学級指導の他の指導内容（適応、進路、健康・安全に関する指導）と関連させながら、補充、深化、統合された指導を行っていくことになる。

② 学業指導の内容

学級指導における学業指導の内容としては、学習意欲・態度に関するもの、学習方法に関するもの、学習環境に関するものに大別できる。

それぞれの具体的な指導内容は次の表のようなものが考えられるが、指導計画を作成する際には、学校の実情に応じて弾力的に取り扱ってほしいものである。

なお、指導内容の詳細については、P18～P20の各学年の年間指導計画（例）を参照されたい。

学 業 指 導 の 内 容	
学 習 意 欲	○学習の意義や目的 ○学習の動機づけ ○学習意欲の喚起 ○学習の心がまえ ○学習の目標や計画の立て方 ○学習と進路 ○生活意識のもち方 等
学 習 方 法	生活習慣に関するもの ○睡眠時間のとり方 ○食事の規則性 ○学習時間の配当（平日・休日） ○部活動との調整 ○長期休業中の生活と学習計画 等
	学習態度・性格に関するもの ○自主的な学習態度 ○注意力の集中 ○学習目標達成への努力 ○困難の克服 ○学習に対する不安の除去 ○学習内容の整理 ○試験結果の反省 等
	基礎的学習訓練に関するもの（教科担任との連携） ○予習・復習のし方 ○ノートのとり方、利用法 ○発表や討議のし方 ○聞き方 ○学習の手引の活用 ○参考書の活用のし方 ○読書のし方 等
学 習 環 境	○教室環境の整備 ○生徒相互の望ましい人間関係の育成（連帯感、思いやり） ○学習しやすいような学級の雰囲気づくり ○家庭での勉強部屋の整備 ○テレビや雑誌などの見方 等

③ 指導にあたっての基本的な態度と留意事項

学級指導の意義は、学級における教師と生徒及び生徒相互の人間的な交流をととして、一人一人の生徒のもつさまざまな悩みを解消し、精神的健康を助長することができるよう集団活動を盛り上げていくところにある。したがって、この時間で学業指導を行う場合には、次のような教師の基本的な態度が望まれる。

- (ア) 生徒一人一人を、かけがえのない人格をもった人間として尊重する態度。
- (イ) 生徒自身の立場に立って考え、生徒の気持ちをそのまま感じとうとする共感的な態度。
- (ウ) 集団場面の中で、個々の生徒の気持ちや目の前に展開する集団の状況を的確に感じとりながら、それに応じて、適切に援助していこうとする態度。
- (エ) 教師自身も人間的な弱さやもろさをもった存在として、さまざまな悩みをもつ生徒とそれぞれの経験を率直に語り合い、困難を克服していこうとする態度。

このような態度に立ち、実際に学級指導において学業指導を行う場合には、事前、事後の指導も含めて、次のようなことに留意して進めていくことが大切と思われる。

- (ア) 日ごろから、教師と生徒及び生徒相互の間の人間的なふれあいを深めるようにしておく。
- (イ) 日ごろから、指導に必要な資料の収集に努め、生徒理解を深めておく。
- (ウ) 指導計画により、3年間の中学校生活を見通して、計画的・発展的に指導していく。
- (エ) 各教科での学習状況を把握し、各教科担任と連携・協力しながら指導していく。
- (オ) 生徒が主体的に活動できるような指導過程を工夫する。（指導過程についてはP7～P8とP21～P29を参照）
- (カ) 生徒みずからの問題として真剣に取り組む気持ちを起こさせるような資料や事例を活用する。
- (キ) 学級指導の他の指導内容（適応、進路、健康・安全に関する指導）と関連させて指導していく。
- (ク) 生徒の実態や取り扱う主題あるいは内容により、適切な時間を計画する。
- (ケ) 朝の会や終わりの会あるいはいわゆる「ゆとりの時間」などを活用して事前、事後指導にあたる。
- (コ) 授業後、特に指導を要する生徒には、放課後などを利用して、学業相談などとおした個別指導へ発展させる。

(4) 学級指導以外における学業指導

学業指導は学級指導以外のいろいろな場面で行われている。その進め方についてはP15～P17に記述しているので、ここでは、特に学業指導と各教科、道徳、特別活動、家庭との連携、個別指導との関連について基本的な事項について考えてみる。

① 各 教 科

教科指導と学業指導は、日常の指導において厳密に分けられない場合がある。むしろ、学業指導は教科指導の中で行ってこそ効果的である場合も少なくない。したがって、教科担任は学習の意義や目的、学習の方法などをくり返し指導するとともに、生徒の学習状況を適切に把握しながら学業相談などとおして、できるだけ個々に指導にあたっていくことが大切になってこよう。

② 道 徳

学業指導が効果的に行われるためには、生徒自身の意識の中に、自分の立てた学習計画を着実

に実行しようとする強い意志がなければならない。道徳の時間に用いられる資料等とおして、困難に負けず絶えず努力しようとする態度を養うとともに、人はみな真の意味の学習を、生涯つづけていくことの大切さにも気づかせたい。

③ 特別活動

生徒の学業生活は学級の仲間や上級生などとの人間関係に大きく左右されている場合がある。生徒相互の望ましい人間関係は、とりわけ特別活動のさまざまな場面で、実際に主体的に取り組ませる過程でこそ育てられるものであろう。したがって、学級会活動における生徒の係活動などをはじめとして生徒活動には、教師の指導のもとに、生徒の手で企画し運営されるような活動場面をできるだけ多く設定してやりたいものである。このようにして育った集団は学習場面にも転移して「鍛え合い、助け合う」学習集団へと発展し、生徒一人一人の学業生活の向上が図られることになると思う。

④ 家庭との連携

生徒の学業上の問題については、家庭生活からの影響も大きく、学校でも家庭での実態を理解したうえでなくては指導の成果も期しがたいものである。学校の学業指導に対する考えを保護者に十分伝え、協力を求めることが必要だろう。テレビの影響を受けて家庭学習が思うように進めることができない生徒も多い。家族の人間関係に悩んでいる生徒も少なくない。

そこで学校としては、PTAの懇談会や学級父母会、授業参観日などを利用して、教師と父母が生徒の家庭生活や学校生活について話し合えるようにするほか、PTA通信、学年・学級通信などとおして、学校が進めている学業指導の様子を常時伝えておきたいものである。さらに、特別に指導を要する生徒には、家庭訪問を行い、父母、生徒、教師の三者の話し合いにより一致点を見い出して、生徒が目標をもって学業生活ができるよう援助してやる必要がある。

⑤ 個別指導

生徒の能力・適性、性格、学習にかかわる悩み等は複雑多岐にわたるものである。学級指導の中で指導された学業指導の内容が、一人一人の生徒に定着するためにも、学級担任や教科担任による放課後などを利用した個別指導が大切になってこよう。そこでは、生徒の家庭での学習計画やその実施状況、不得意教科の克服、学習方法、学習意欲、教師との人間関係などの問題について、じっくりと話し合いがなされるようにしたい。

2 学級指導における学業指導の進め方

学級指導で学業指導を行う場合、実践に結びつく指導を急ぐあまり、指導の重点が、どちらかというと実践の手だてや点検の方法などを見つけて出させることに力点がおかれがちである。衝動的に行動したり、物事をまだまだ表面的にしか見られない中学生が多い中で、なぜそうしなければならないのか、その必要性を理解させなければ、せっかくの実践への手だての指導も、生徒の学業生活の実践に結びつきにくいものとなろう。

そこで、ここでは生徒の実践意欲をどう育てていくか、そのためにはどのような指導過程が大切にされなければならないのか、どのような資料を用いれば生徒の実践意欲を高めていくことができるのか、などについて考えてみたい。

(1) 指導過程の工夫

指導過程は指導する主題や内容により、決して一様なものではないが、ここに一つの例として指導段階でのねらいを中心にした指導過程の概要と指導上の留意事項をあげている。

指導過程の概要

		指導段階でのねらい	指導方法
導入 展開	(自己受容)	① 実態を知らせる。(問題点の意識化) ・実態調査の提示や各自の生活をふり返えさせる。 ② 問題点に気づかせる。(問題点の共通化) ・共通して解決していかなければならない問題点に気づかせる。 ③ 問題点の原因や理由を見つめさせる。(問題点の原因の追求) ・問題点を解決するためにはその原因や理由を明らかにする必要があることに気づかせる。	※情報の提供 ・アンケート ・生徒作文 ・著書、新聞、雑誌 ・体験談、講話、説話
	(自己理解)	④ 問題点の解決法を考えさせる。(解決法の発見) ・話し合いや発表をさせて多様な解決法を考えさせる。	※調査、検査 ・実態調査 ・アンケート ・生徒の事例
整理・発展	(自己教育)	⑤ 問題点の解決法を確かめさせる。(解決法の個別化) ・各自の問題としてどのような解決法がよいのかを確かめさせる。 ⑥ 各自の今後のあり方、方向をまとめさせる。(実践への意欲化) ・今後どのような心がまえで実行していけばよいのかをまとめさせる。	※話し合い ・学級全員・小集団 ※評価 ・教師の観察 ・アンケート ・自己評価

次に指導上の留意事項をあげると

- ① 導入、展開、整理・発展ごとのねらいをおさえる。
- ② 生徒の実態調査などを活用し、考える材料、話題となる資料を準備する。努めて生徒の生活経験を生かす。
- ③ 集団として解決しなければならない場合は、個人は集団の一員であることを自覚させておくことが大切である。
- ④ 他の生徒の意見に耳を傾け、生徒同士が互いの意見を大切にし、安心して発言できるような雰囲気づくりに努める。

- ⑤ 話し合いは、学級の実態に即し、固定的な方法に陥らないよう小集団学習なども取り入れて弾力的でありたい。
- ⑥ 集める、調べる、発表するなどの生徒が活躍できる場面をできるだけ多く設定してやり、生徒が主体的に活動できるように配慮する。
- ⑦ 個々の生徒の感想、意見、つまずきなどを正しくとらえ、生徒自身で解決できるように助言していく。教師の一方的な指導という印象を与えないように配慮する。
- ⑧ 整理・発展の段階は、指導過程のしめくりとして位置づけるだけでなく、個々の生徒にとって、今後の生活を設計し、実践する出発点となるようにしたいものである。そのためにも、事後の個別指導へのつながりを十分おさえておく必要がある。

(2) 資料の活用と選定

授業の中で生徒自身の心情に深く迫るためにも、資料や情報をどのような場面で、どのような内容のものを与えていくかは、授業の展開を大きく左右していくことになる。1単位時間の流れとしては、一般的には、問題把握の段階、思考の段階、整理や発展の段階などの場面が考えられるが、それぞれの段階で資料があまり多すぎないように、しかも、より身近な切実感のあるものを与えていきたいものである。望ましい資料の備えるべき条件としては、次のようなものが考えられる。

- ① それぞれの指導段階でのねらいが達成できるものである。
- ② 資料や事例の内容の表現が理解されやすく、身近かで具体的である。
- ③ 生徒の希望、期待、不安、つまずきなどの状況が含まれている。
- ④ 量的にみて、1単位時間の指導で可能である。

なお、望ましい資料は、学級担任一人ではなかなか集めにくい実情にあるので、全校教師の協力によって集められるように協力体制を組んでおく必要があろう。

(3) 年間指導計画

授業を実際に行う上では、生徒の実態を十分考慮し、内容の吟味や取り上げる時期を検討し計画的に主題を設定することは当然のことであろうが、一つの例としてP18～P20に各学年の年間指導計画(例)(各学年7時間扱い)をあげてみた。生徒の実態等に基づいて検討し、活用してほしいものである。なお、次に示す指導事例は、この年間指導計画により指導案を作成し、実際に授業を行い、考察を加えたものである。

(4) 学業指導の指導事例

第2学年〇組 学級指導案(学業指導)

男21名女16名計37名

指導者名 ○ ○ ○ ○

1. 主 題 不得意な教科を克服しよう
2. 主題設定の理由

最近、生徒の学習の様子をみると、中だるみの状態にあり、不得意な教科や嫌いな教科がでてきている。それらは、教科の勉強のし方がわからない、その教科の学習意欲がわからない、教科担任の教師との人間関係がうまくいかない、自分の努力が不足しているなどの原因や理由によると考えられる。

また、生徒自身が自分の能力を発揮できず、不得意な教科と思ひこみあきらめているとも考えられる。そこで、不得意な教科に対してあきらめず努力し、克服していくためにどうしたら良いかを考えさせるためにこの主題を設定した。

3. ね ら い

- (1) 不得意な教科や嫌いな教科を克服しなければならないことに気づかせる。
- (2) 不得意な教科や嫌いな教科と思うようになった原因や理由などを考えさせるとともに、自分に合った解消法を見つけさせ、積極的な学習意欲と態度を育てる。

4. 指導にあたって

- (1) 本主題は、特別活動指導要領の中の学級指導で述べている四つの内容の中の(2)学業生活の充実に関することにかかわる内容であり、特に、その中には「学業上の不適応の解消」と「学習の意欲や態度の形成」の両方にまたがる内容である。2年生の段階では、望ましい学習のあり方として、自ら立てた学習の目標や計画に沿って取り組み、自分の学習を進めることができるようにしなければならない。そのために、各自の学習全般の取り組みなどを振り返らせ、つまずきの解消法を探りながら、今後の生活における学習面での意欲的な態度を育てていく。

- (2) 教科に対する好き嫌いや得意不得意等の生徒の意識を調べるために行った調査結果は次のとおりである。

① あなたには得意な教科がありますか。	ある 68%	なし 32%
② あなたには好きな教科がありますか。	ある 93%	なし 7%
③ あなたには不得意な教科がありますか。	ある 96%	なし 4%
④ あなたには嫌いな教科がありますか。	ある 96%	なし 4%
⑤ あなたにとって不得意な教科と嫌いな教科が同じですか。	同じ 50%	違う 31%
⑥ あなたは嫌いな教科や不得意な教科をとりもどそうとして学習したことがありますか。	ある 34%	ない 66%

これらの結果から見ると、ほとんどの生徒が不得意な教科や嫌いな教科を持っている。そのように思うようになった原因や理由として挙げている内容は、ほとんど同じである。まとめると、自分の感情的な問題、教師に対する不満、自分の能力についての悩み、努力不足などの内容がほとんどであるが、中には、努力不足に気づきながらも取り組むことができず、悩んでいる生徒もいる。また、不得意な教科と嫌いな教科が同じと答えている生徒が50%で、一致しないと答えた生徒は31%と少ない。不得意な教科や嫌いな教科を克服しようとした生徒も34%と少ない。

- (3) 学級のほとんどの生徒が不得意な教科や嫌いな教科を持っており、不得意な教科、嫌いな教科、苦手の教科、伸びない教科などを、同じ意味で考えている生徒が多い。

嫌いな教科が即、不得意な教科ではないことと、嫌いな教科は、特に感情的なものなどに左右されていることを指導者はおさえておく必要がある。ここでは、不得意な教科や嫌いな教科になった原因や理由などを探り、その内容を見つめさせながら、努力しなければならないことを気づかせていくようにしたい。

解消するための方法を考えさせるにあたっては、不得意な教科から得意な教科に、嫌いな教科から好きな教科に変えることができた体験者の学習の取り組み方などをおして、自分にあった解消方法を見つけさせていきたい。

各自の実践への習慣形成にあたっては、生徒の目標や計画、授業中の様子などを把握し、励まししながら意欲づけをはかっていきたい。また、教科担任や学年担当と連携しながら個別指導もしていきたい。

5. 指導計画

(1) 事前指導

- ① 不得意な教科・嫌いな教科となった原因や理由、それらの教科に対する取り組み状況などを把握するために、1週間ぐらい前のその日の終わりの会などで調査しておく。
- ② 不得意な教科や嫌いな教科の調査で一番多かった英語の「私の英語の学習法」と題し作文を宿題として書かせておく。

(2) 本時の指導 1時間 (別記)

(3) 事後指導

- ① 授業終了後、事後の調査を実施し生徒の変容を確かめる。 「資料1・2」
- ② 不得意な教科や嫌いな教科に対する各自の取り組みの様子を点検しながら、教科担任と共に放課後などを利用し個別指導をする。
- ③ 生徒の教師に対する意見や要望などは、学年部会で話し合い、教科担任と連携をとりながら改善をはかる。

6. 本時の指導過程

指導段階でのねらい		指導上の留意点
導入	知らせる・気づかせる	• 学級のほとんどの生徒が、不得意な教科や嫌いな教科を持っていることを知らせる。 • このままでは、後で困ることの意義や必要性を押さえておく。 雰囲気や和らげるために、結果の予想をたてさせ、克服しようと努力する人が少ないことをめめる必要があることに気づかせる。 士気を高めるような発問を工夫したい。 得意な教科・嫌いな教科の中で一番多かった英語の教科を中心に進める。
	見つけさせる	• 不得意な教科や嫌いな教科の内容を意図的に整理しながら板書し構造化をはかうようになった原因や理由などを見つけさせる。 • 不得意な教科や嫌いな教科を得意な教科や好きな教科への取り組みの様子を思い出す方法を考えさせる。 教師に対する問題 努力不足の問題 感情的な問題 能力の問題
展開	考えさせる	克服するための手だてを考えさせたい。 としては、授業態度、目標や計画、教科担任に相違などが出てくるだろう。 面では、自信を持つ、他の人のせいにしない、あきらめない、必ず実行する、計画的に努力するなどがくるだろう。
	確かめ・まとめさせる	• 克服する方法を確かめながら面での対策にとまどうと考えられるが、特に、日ご学習の心がけを厳しく見つけさせたい。 得意な教科と嫌いな教科との違いにもふれる。
発展	決意させる	• 自分の不得意な教科や嫌いな教科や好きな教科にも意欲的に取り組ませる。 克服するために、今後の取り組めるように具体的な内容を各自に決意させ、事個別指導で習慣形成を目指すようにする。

解消するための方法を考えさせるにあたっては、不得意な教科から得意な教科に、嫌いな教科から好きな教科に変えることができた体験者の学習の取り組み方などをとおして、自分にあった解消方法を見つけさせていきたい。

各自の実践への習慣形成にあたっては、生徒の目標や計画、授業中の様子などを把握し、励ましながら意欲づけをはかっていきたい。また、教科担任や学年担当と連携しながら個別指導もしていきたい。

5. 指導計画

(1) 事前指導

- ① 不得意な教科・嫌いな教科となった原因や理由、それらの教科に対する取り組み状況などを把握するために、1週間ぐらい前のその日の終わりの会などで調査しておく。
- ② 不得意な教科や嫌いな教科の調査で一番多かった英語の「私の英語の学習法」と題し作文を宿題として書かせておく。

(2) 本時の指導 1時間 (別記)

(3) 事後指導

- ① 授業終了後、事後の調査を実施し生徒の変容を確かめる。 「資料1・2」
- ② 不得意な教科や嫌いな教科に対する各自の取り組みの様子を点検しながら、教科担任と共に放課後などを利用し個別指導をする。
- ③ 生徒の教師に対する意見や要望などは、学年部会で話し合い、教科担任と連携をとりながら改善をはかる。

6. 本時の指導過程

指 導 段 階 で の ね ら い			教 師 の 働 き か け（○発問・指示）	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	知 ら せ る ・ 気 づ か せ る	・学級のほとんどの生徒が、不得意な教科や嫌いな教科を持っていることを知らせる。 ・このままでは、後で困ることに気づかせる。	・アンケートの調査結果をTPで提示する。 ・これは、不得意な教科・嫌いな教科などについて調査した結果である。 ○今の状態が続いていると、後で困らないか。 ・「望ましくない、問題だな」と思うことがあったらなぜそのままいけないのか、理由を含めて発表してみよう。 ・課題を把握させる。 不得意な教科や嫌いな教科を克服するにはどうしたらよいか。 〈自分の学習方法で特に改めなければならないのはなにか〉	1. アンケートの調査結果を見て、学級の様子を知る。（一斉） ・学級の実態から問題点をあげる。 ・学習課題を把握する。	・学級の雰囲気や和らげるために、結果の予想をたてさせながら提示する。 ・学習の意義や必要性を押さえておく。 ・問題点として、克服しようと努力する人が少ないことと、改める必要があることに気づかせる。 ・学級の士気を高めるような発問を工夫したい。 ・不得意な教科・嫌いな教科の中で一番多かった英語の教科を中心に進める。
		・不得意な教科や嫌いな教科を持つようになった原因や理由などを見つめさせる。 ・不得意な教科や嫌いな教科を克服する方法を考えさせる。	○どうして不得意な教科や嫌いな教科と思うようになったのか。 ・今、あげた原因や理由などを取り除かなければ、不得意な教科や嫌いな教科を克服することが出来ないことを確認させる。 ○英語が得意になるにはどうしたら良いか。 ○英語が好きになるにはどうしたら良いか。 ・克服するために、自分たちで出来ることはどんなことか。グループで話し合いまとめよう。 ○具体的な対策を発表し合ったが、これまでなぜできなかったのか。 ・「私の英語の学習法」を○○さんに紹介させる。 内 容 ・気持ちを改めた ・友人や先生に聞くように心がけた	2. 英語の教科を中心に、そう思うようになった原因や理由などを考え、発表する。 3. 不得意な英語や嫌いな英語を克服する方法について話し合う。（個～グループ～一斉） ・克服するための具体策についてグループで話し合う。 ・グループの代表者の発表を聞く。 ・発表された具体策だけで良いかを見直す。 4. 発表された克服する方法を整理する。（一斉） ・「私の英語の学習法」と題した体験発表を聞く。 5. 各自が今後の取り組み方法をまとめる。（個） ・発表を聞く。（一斉）	・事前に、理由や原因を考えさせておく。 ・発表内容を意図的に整理しながら板書し構造化をはかる。 (例) 教師に対する問題 努力不足の問題 感情的な問題 能力の問題 ・得意な教科や好きな教科への取り組みの様子を思い出させ、克服するための手だてを考えさせたい。 ・予想としては、授業態度、目標や計画、教科担任に相談するなどが出てくるだろう。 ・心情面では、自信を持つ、他の人のせいにはしない、あきらめない、必ず実行する、計画的に努力するなどが出てくるだろう。 ・心情面の対策にとまどうと考えられるが、特に、日ごろの学習の心がけを厳しく見つめさせたい。 ・不得意な教科と嫌いな教科との違いにもふれる。 ・得意な教科や好きな教科にも意欲的に取り組ませる。 ・実践できるように具体的な内容を各自に決意させ、事後の個別指導で習慣形成を目指すようにする。
整 理	確 か ま と め さ せ る	・克服する方法を確かめながらまとめさせる。			
発 展	決 意 さ せ る	・自分の不得意な教科や嫌いな教科を克服するために、今後の取り組みを考えさせる。	・学習で学んだことを参考に、自分が一番不得意とする教科や嫌いな教科を克服するため、学習の取り組み方や気持ちなどの具体的な改善策をまとめよう。		

「資料1」 不得意な教科や嫌いな教科の克服の学習を終えて

(事後調査結果)

1. あなたはこの時間に、興味や関心を持って学習できましたか。
・はい(67%) ・いいえ(0%) ・どちらともいえない(33%)
2. あなたは不得意な教科や嫌いな教科を持つようになった原因や理由などを聞いて、このままではいけないと思いましたか。
・はい(94%) ・いいえ(0%) ・どちらともいえない(6%)
3. あなたは不得意な教科や嫌いな教科をなくすための話し合いを聞いて、参考になりましたか。
・はい(89%) ・いいえ(0%) ・どちらともいえない(11%)
4. あなたはあなたに適した、不得意な教科や嫌いな教科をなくすための具体的な方法を考えられましたか。
・はい(75%) ・いいえ(6%) ・どちらともいえない(16%) ・無答(3%)

「資料2」 今日の学習から

(生徒の学習プリントより)

- (1) 英語が不得意だったり、嫌いだった人だけ書いてください。(延人数)

* 私は英語の教科を得意に、また、好きになるため、こんな努力をしていきたい。

【学習態度に関する内容】

【学習方法に関する内容】

【心情面に関する方法】

- | | | |
|-----------------|--------------------|------------------------|
| ・集中して授業を受ける (8) | ・わからないことを友達に聞く(9) | ・先生を好きになる(3) |
| ・真剣に授業を受ける (3) | ・楽しい勉強法を考える (9) | ・かならず実行する(3) |
| ・授業にまじめに取り組む(1) | ・わからないことを先生に聞く(8) | ・わからないことを他の人のせいにしない(2) |
| ・質問を多くする (1) | ・自分にあった勉強を見つける (2) | ・いやでもがんばる(1) |
| ・挙手を多くする (1) | ・遅れをとりもどす (1) | ・あきらめないでやる(1) |
| ・発言を多くする (1) | ・単語を何回も書く (1) | ・英語が好きになるよ |
| 【家庭学習に関する内容】 | ・文法に力を入れる (1) | うにがんばる (1) |
| ・復習を毎日する (8) | ・本を何回も読む (1) | ・途中でくじけない(1) |
| ・計画的に勉強する (4) | ・1年の英語をやりなおす (1) | |
| ・家庭学習をがんばる (1) | | |

- (2) 英語が不得意でも嫌いでもない人は、他の教科のことで書いてください。

* 私は〇〇の教科を、得意に、また、好きになるため、こんなことを努力していきたい。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ・理科-他の教科より多く時間をかける (1) | ・国語-毎日漢字の練習をする (1) |
| ・社会-年号をおぼえるようにする (1) | ・わからないところを先生に聞く (2) |
| ・数学-計算問題を多くする (1) | ・あきらめないでまじめに授業を受ける (1) |
| ・美術-興味や関心を持つようにする (1) | |

7. 授業研究を実施しての考察

(1) 指導過程

- ① 各指導段階のねらいが明確なので、授業の展開がしやすいように思われる。
- ② 気づかせる段階での課題設定にあたっては、克服の必要性和学級の士気を高めるような教師の強い働きかけが必要と思われた。

- ③ 見つめさせる段階で、教師の指導法について、生徒の意見や要望などを聞くことができた。生徒にとっては、今まで思い悩んでいたことをこの授業のなかで発表できた。

指導者は、生徒の生の声を受けとめて、生徒と対等に接し、教師側にも弱さがあることやこれまでの自分の経験などを素直に話し、授業を進めた。

その対応の仕方が適切であり、常日ごろの学級担任と生徒が望ましい信頼関係が結ばれている様子をうかがうことができた。

- ④ 考えさせる段階で、克服しようとする方法や手段を生徒は挙げるが、それらをやりとげようとする自分の意志の弱さに気づく生徒は少ない。もっと、実行することが大切であることに、気づかせるような問いかけが必要であった。
- ⑤ 考えさせる段階の原因や理由についての対策を考えさせる過程では、プリントした資料を用いて指導した方が良かった。

(2) 生徒の思考過程

- ① 抽出生徒の観察記録をみると、上位、中位の生徒には、各指導段階ごとに、うなずく、挙手する、発表する、学習プリントを書く、グループで発言するなどの意欲的な授業態度が見られた。下位の生徒は、気づかせる・見つめさせる段階ではまじめに参加する態度が見られた。考えさせる段階でのグループの話し合い活動では、自分の意見を言わず聞くだけであったが、決意させる段階に入ると「単語の練習を何回も書いておぼえる」と学習プリントに記入しており、本時の課題をとらえて考えていた。

(3) 教師の働きかけ

- ① 学級の実態からしても気づかせる段階で、克服の必要性を生徒に発表させ確認し合うことが必要であった。
- ② 考えさせる段階では、グループの発表後に「これまで、このような具体策がなぜ実行できなかったのか」などの発問が必要であった。
- ③ グループの話し合いに、熱心に参加できない生徒が少数見られた。グループでの話し合いの進め方を、リーダーに常日ごろから指導しておく必要性を感じた。

(4) 生徒の意欲づけ

- ① 「資料1・2」の事後調査や生徒の学習プリントの記録から見ると、本時のねらいはおおむね達成されたと思われる。

(5) 指導案について

- ① 指導過程を、導入、展開、整理、発展と分け、指導段階でのねらいを位置づけたことは、指導者にとって無理がなく指導ができた。この場合は指導過程を修正する必要がないと考えた。
- ② 教師の働きかけについては、グループ活動をさせていても、特に、下位生徒への直接的な働きかけや発問の工夫を含めて検討する必要がある。

(6) 授業全体をととして

- ① 授業のなかで、生徒から教師に対する意見や要望などが出たときに、それらの声を教師が受け入れたことが、生徒の本音を出させたものと思われる。常に学級指導では、生徒と共に考える授業がいかに大切であるかがわかる。

- ② 学級指導の時間では、生徒一人一人の意欲づけを重視して指導していきたい。生徒が決意したことを実践させていくためには、事後指導が重要になってくる。

本時の授業では、生徒一人一人が決意し、学習プリントに書いたことが実践されるように事後指導が必要である。

つまづいている生徒には、いろいろな機会を見つけて個別指導をくりかえしながら、実践をめざすことが必要である。

3 学級指導以外における学業指導の進め方

学業指導は、学級指導の限られた時間の中だけでなく、学校における教育活動のいろいろな場面でなされている。ここでは、学級担任と教科担任を中心に、学級指導以外で行われる学業指導について、指導の場と指導内容を検討し、その進め方について考えてみたい。

(1) 学級担任による学業指導

① 集団場面における指導

指導内容を見ると、①学業不振・学業不適応児の治療的指導、②学業生活のあり方、学習の方法、学習習慣、積極的な学習への参加態度などを学ばせる開発的指導の二つに大別できる。

ア 終わりの会で——学業指導の授業にかかわる事前・事後の指導、実態調査や悩みの調査をする場として利用できる。

イ いわゆる「ゆとりの時間」や放課後の時間で——週時程の中で、学級の日あるいは学級優先の日を組み、その中で学業指導の時間をとったり、グループごとの協同(協力)学習をさせたりすることができる。また、諸検査の実施と分析結果にもとづく指導などもできる。

ウ 教科・道徳・特別活動の中で——学業にかかわる指導内容について、それぞれの場面で指導することができる。また、学級会活動の中で、学業に関する議題を中心に扱う場合もあろう。

エ 学校行事・学年行事の後で——入学時のオリエンテーション(新入生指導)や進級時、長期休業の前後に集会を開いて、学校全体あるいは学年全体の生徒に指導しているが、この中で学業にかかわる内容も指導できる。この場合、学級担任がそうした指導内容を更に補充し深化するために事後指導をすることも考えられる。

② 個別指導・個別相談

学級担任が、学級の一人一人の生徒に、個別指導や個別相談をする時間的余裕がないという声も多いが、学級担任として、学業指導における個別指導や個別相談の重要性を再確認していきたい。まず、何よりも大事なことは、そうした機会と場を見つけ出すように努めていくことではないだろうか。

ア ①であげた集団場面における指導の中で——一人一人の生徒が持っている学業上の悩みや問題をとりえて、個別指導の機会と場面を作って指導することができる。

イ 学業相談をととして——学業相談は、個別相談の中でも進路相談とともに大切である。何らかの解決を必要とする学業上の悩みや問題をもつ生徒を援助し、助言していくことは、学級担任として、常日ごろ配慮していきたいことである。

学業相談のやり方としては、①定期相談 ②チャンス相談 ③呼び出し相談 ④自発相談

⑤グループ相談などがあるが、中でもチャンス相談を大事にしていくことによって、学業相談の機会と場をより多くつかんでいくことができよう。たとえば、清掃や作業の中でとか、日直や係の仕事で職員室にきた折に、又は、廊下で会った時に立ち止って話をするこゝもあろう。相談の場は、教室や教育相談室だけでなく、学校のあらゆる場所がその場となりうる。

学業相談の内容としては、生徒の学習方法の改善、不得意な教科の克服、個に応じた学習の援助、部活動と学習との両立を図ること、家庭学習のやり方、学習意欲についてのこゝと、生徒と教師との人間関係などに関するこゝとなどが考えられよう。

個別相談をする中で特に留意したいこゝとは、生徒の悩みを受容することと、共感的にその生徒を理解することである。事前に、相談したい内容を生徒に書かせたり、教師と生徒との交換日記やグループ日記などに書かれている生徒の悩みや問題をもとに相談することもできる。

ウ 生徒の記録や日記をととして——生徒の作文、生活記録ノート、グループ日記、交換日記、相談ポストの生徒の声などに対して、学級担任が感想や意見や励ましの言葉を書き入れて、生徒一人一人に個別指導をすることができる。教師のひとこゝとが、生徒本人にとっては大きな励みになるこゝとであらう。

エ 家庭訪問で——家庭訪問の機会を生かして、学業について個別指導をしたり、本人との相談を積極的に進めたい。学級担任は、生徒本人だけでなく、親の相談相手としての役割もある。生徒本人や親とともに話し合う教師の姿勢と態度としては受容的態度で接し、共感的に理解するように配慮していきたい。

(2) 教科担任による学業指導

ア 自分の担当教科の中で——自分が担当している各教科の授業の中で、学業についての集団指導あるいは個別指導をしていくことができる。その場合に、教科担任として、特に留意して指導したい内容としては、次のようなこゝとが考えられる。

- 勉強することの意義をわからせる
- 勉強のし方をわからせる
- 勉強に対する意欲を喚起させ、自主的・積極的な学習態度を育てる
- 教科の学習内容に興味や関心をもたせる
- 教科の学習の目的意識をもたせ、その教科の特質をつかませる
- 嫌いな教科を克服する努力をさせる
- 不得意な教科の学習をあきらめないようにさせる
- 教科特有の学び方を学びとらせる

イ 個別指導・個別相談——休けい時間や放課後の時間などに、教科担任が生徒本人を呼んで個別指導をする。あるいは、チャンス相談や呼び出し相談などの機会をとらえて、個に応じたきめの細かい援助や助言をすることができる。

ウ 教科担任の役割——学業指導に関して、教科担任として最も重要な役割は、その教師が担当している教科の学習をすべての生徒に好きにさせるこゝと、少なくとも嫌いにさせないこゝとであらう。毎日の授業についてより深い教材研究を行い、一人一人の生徒が目を輝かせて学習に取り組んでいけるような授業を行うこゝとが、その基盤として要請されるこゝとになる。

(3) 学級担任と教科担任・学年担当・養護教諭等との連携と協調

学級担任と教科担任・学年担当・養護教諭・部顧問などの教師同士が、常日ごろから人間的触れ合いを深めて、お互いに連携し、協調合つて学業指導にあたっていくこゝとは、非常に重要なこゝとである。教師同士がお互いに信頼感で結ばれているこゝとは、生徒を変容させていく原動力となるからである。一人一人の生徒のこゝとで、いつでも気軽に話し合える職場の雰囲気醸成していきたいものである。

ア 教科担当者会（教科担任会）の計画と実施——学級担任と教科担任との教科担当者会では、問題となる生徒の学習意欲、学習態度、能力、適性、性格などを含めた学業上の諸問題について話し合い、情報を交換し合うこゝとができる。また、それぞれの学級がかかえている諸問題や、学級全体の士気を高揚させるためにどうすれば良いかなど、具体的な内容を通じて話し合うこゝともできる。

イ 学業指導資料の整備——上記の教科担当者会に提出する資料だけでなく、常日ごろ、お互いに自由に閲覧できる資料を整備しておきたい。生徒個人ごとのカード記入式ファイルなどがあれば良い。個別指導や個別相談の結果を常に記録しておき、保管し次年度へ引き継いでいきたい。

なお、常に整備しておきたい資料としては、次のようなものが考えられよう。

- 生徒指導個票（学業指導にかかわるものとして、こゝの中に知能偏差値、学力検査の結果の分析と診断、A A I 検査（新学習適応性検査）の結果なども加える）
- 学習成績の資料
- 授業での学習状況記入カード
- 教科担当者会のための提出資料と話し合いの記録

ウ 協体制づくり——学級担任が、教科担任に、教科学習にかかわる学業指導や学業相談を依頼することも必要である。また、学年担当・養護教諭・部顧問などに、学業上の悩みや問題をかかえている生徒に対して個別指導や個別相談をいつでも依頼できるような協体制づくりをしておきたい。教師相互の連携と協調があるならば、一人一人の生徒の学業上の悩みや問題を早期に発見し、早期に解決していくこゝとが、より適切に行われるであらう。

4 学級指導における学業指導の年間指導計画(例)と指導過程(例)

(1) 学業指導の年間指導計画(例)

〈第1学年の指導目標〉 中学校における学習の意義や目的、内容や方法などを理解させ、よりよい生活を築こうと努力する態度を育てる。

(1主題 1時間扱いとする)

学期	主 題	ね ら い	指 導 の 内 容 と 留 意 点 ●内 容 ○留意点
1	学習への心が まえをもとう	中学校の学習の特色や学習 内容を理解させ、学習への 心がまえをもたせる。	●中学校の学習の特色と学習内容 ●学習への心がまえ ○教科の学習だけでなく、道徳や特別活動も学習で あることに気づかせ、調和のとれた学習のあり方 についても考えさせる。
	学習計画を立 てよう	学習習慣を身につけていく ために、計画的な学習が必要 であることを理解させ、 学習の計画を立てさせる。	●学習計画の必要性 ●学習計画の立て方 ●学習計画の作成 ○1日の生活全体のバランスを考えさせ実行可能な 計画を立てさせる。 ○作成については家庭での課題として考えさせる。 提出後助言する。
	学習の方法に ついて考えよ う	自分に合った効果的な学習 のし方を工夫させ、学習の 発展をはからせる。	●授業態度の反省 ●学習の工夫 予習・復習のしかた ノートのとり方 ○教科担任に質問したり、相談したりしやすいよう な雰囲気づくりをする。
2	授業における 学習態度につ いて考えよう	授業を受けるときの学習態 度について反省させ、良く ない原因を見つめさせ解決 の方法を考えさせる。	●授業中における自分や学級全体の学習態度 ●全体の学習態度が高まることの意義 ●全体の学習態度の高め方 ○学級会活動とも関連させて考えさせる。
	家庭学習を見 直し真剣に取 り組もう	家庭学習の意義を考えさせ 予習・復習の日常化と平均 化をめざし、学習習慣を育 てる。	●家庭学習における問題点 ●家庭学習の意義 ●家庭学習の方法・計画の改善 ○お互いにもつ問題点を検討し合うことによって方 法や計画についての改善の手がかりを得させる。
	学習の悩みの 解決に努めよ う	学習上の悩みや問題点を明 らかにさせ、その解決のし 方を考えさせる。	●学習上の悩み ●悩みの解消の工夫 ●相談の必要性 ○だれでも悩みを持っていることに気づかせ、自分 でその解決に努力することの大切さを考えさせる。
3	1年間の学習 生活をふりか えってみよう	1年間の自分の成長を学習 生活をととしてふりかえら せる。また、春休みの学習 計画を立てさせる。	●1年間の学習についての反省 ●学習上の問題点 ●春休みの学習計画表の作成 ○学習計画表の作成は終わりの会を利用したり、家 庭の課題とさせ、提出させて個別指導する。

〈第2学年の指導目標〉

中学校での学習にいつそうよく慣れさせるとともに、自己と集団とを向上させながら、すすんで学習に取り組む姿勢と態度を育てる。

(1主題 1時間扱いとする)

学期	主 題	ね ら い	指 導 の 内 容 と 留 意 点 ●内 容 ○留意点
1	学習への心が まえをもとう	中堅学年としての立場を理 解させ、これから1年間の 学習のあり方を考えさせる。	●これまでの学習についての反省 ●2年生としての学習のあり方 ●学習における努力目標と心がまえ ○全員の努力目標を教室に掲示したりするのも学習 の雰囲気を高めるのに効果がある。
	家庭学習の方 法を見直そう	これまでの家庭学習をふり かえりその必要性を再認識 させ、自分に合った方法で 予習、復習などの自立的な 学習ができるようにする。	●学習方法の工夫 ●学習計画の立て方の反省 ●学習計画の作成 ○週計画および日時計画を考えさせ、後に提出さ せて助言を与える。
	不得意な教科 を克服しよう	不得意な教科を克服しなけ ればならないことに気づか せる。不得意な教科をなく す方法を見つけさせる。	●不得意な教科、嫌いな教科と思うようになった原因 ●克服するための学習方法 ●自分に合った学習方法 ○具体的な解消方法をあげさせながら、特に心情的 な原因を強調し、学習意欲をもたせる。
2	学習計画を改 善しよう	これまでの学習計画を改善 して、より自分に合った学 習計画を立てさせ、調和の とれた学習生活をさせる。	●教科以外の諸活動の意義 ●教科以外の諸活動と学習の両立にかかわる問題点 ●問題点を解決していくための学習方法や計画の改 善 ○諸活動も学習も心身の発達期にある中学生にとっ てともに大切であるという立場で考えさせる。
	協力し合っ て学習しよう	学級の一人一人が協力し合 って学習へ取り組もうとす る態度を育てる。	●自分や学級全体の学習態度 ●協力し合って学習することの意義 ●協力し合って学習をすすめるための方法 ○学習意欲は学級全体の雰囲気にも影響されること を気づかせる。 ○学級会活動とも関連させて考えさせる。
	進路を見つめ て学ぶことの 意義を考えよ う	将来のことや進路を見つめ させながら、学ぶことの意 義や目的を把握させ、自ら すすんで学習する態度を育 てる。	●学ぶことの意義や目的 ●高等学校へすすむことの意義や目的 ○内容を深めるために、生徒に身近な資料を準備 する。 ○進路についての指導とも関連させて考えさせる。
3	1年間の学習 生活をふりか えってみよう	1年間の自分の成長を学習 生活をととしてふりかえら せる。また、春休みの学習 計画を立てさせる。	●1年間の学習についての反省 ●学習上の問題点 ●春休みの学習計画表の作成 ○学習計画表の作成は、終わりの会を利用したり、 家庭の課題とさせ、提出させて個別指導する。

〈第3学年の指導目標〉

中学校での学習を充実させ、望ましい学習習慣の確立をめざすとともに、自己の進路ともつなげる学習態度を育てる。

(1主題 1時間扱いとする)

学期	主 題	ね ら い	指 導 の 内 容 と 留 意 点 ● 内 容 ○ 留 意 点
1	学習への心がまえをもとう	最高学年としての立場を自覚させ、これからの1年間の学習のあり方を考えさせる。また、学習における各自の努力目標を立てさせ、自主的な学習態度を育てる。	●これまでの学習についての反省 ●進路をふまえた学習のあり方 ●学習における努力目標と心がまえ ○学習のすすめ方や各教科の学習要点を家庭の課題として、考えさせる。
	学習方法を工夫し学習計画を立てよう	これまでの学習計画の実施状況や学習の方法を反省させ、改善点を明らかにさせ、自分にあった学習計画を立てさせる。	●学習方法についての反省と改善 ●学習計画についての反省と改善 ●学習計画の作成 ○大まかな年間計画、週計画および日時計画を考えさせ、後に提出させて助言を与える。
	夏休みの学習を充実させよう	1学期の反省のうえにたって、夏休みを前にして、自分に最良の生活設計を立てさせ、それを実行しようとする意欲をもたせる。	●1学期の学習についての反省 ●これまでの夏休みについての反省 ●夏休みの学習計画の作成 ○見学など、進路のこととかかわるような計画も考えさせる。 ○計画表は後に提出させて助言を与える。
2	学習計画と学習方法を改善しよう	自分の学習上の問題点を明らかにさせ、学習の計画・方法を検討し改善させる。	●学習方法についての問題点 ●学習計画についての問題点 ●学習計画の作成 ○生徒の事例を用いながら考えさせる。
	協力し合って学習しよう	協力して学習をすすめていくことの大切さを理解させる。学級の一人一人が教え合い、助け合って学習しようとする態度を育てる。	●自分や学級全体の学習態度 ●協力し合って学習することの意義 ●協力し合って学習をすすめるための方法 ○学習意欲は個人の問題であると同時に、学級の雰囲気にも影響を受けることを考えさせる。
	学習上の悩み、問題点の解決をはかろう	進路のこととかかわって、学習上の不安や悩みをどのように解決していったらよいか考えさせる。	●学習にかかわる不安や悩み ●不安や悩みの解決の方法 ●相談の必要性とし方 ○悩みはみんながもっていることを理解させる。 ○悩みは多様で個人差があるので、個別指導へつなげていく。
3	勉強と人生について考えよう	人間的成長を図り社会人として必要な教養を身につけるために勉強しようとする意欲と態度を育てる。	●勉強の意義と目的 ●これまでの勉強への取り組み方 ●これからの勉強への心がまえ ○生徒に身近な人の経験等を伝えながら、実践への意欲をできるだけ深めさせる。

(2) 学業指導の指導過程(例)

- 主 題 名 授業における学習態度について考えよう (1年)
- ね ら い 授業を受けるときの学習態度について反省し、良くない原因を見つめさせ、解決の方法を考えさせる。
- 指導過程

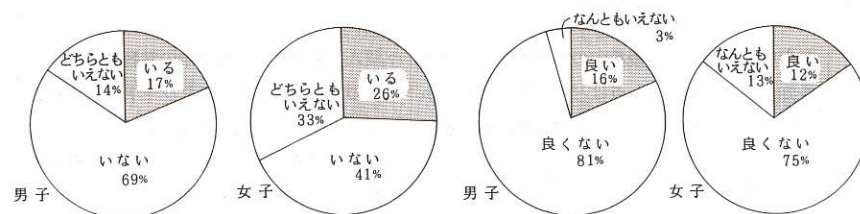
指導段階でのねらい		教師の働きかけ(発問)	資 料(○)・指導上の留意点(・)
導 入	課題を提示する。	○最近の学級の授業中の学習態度はどうだろうか。	○グループ日記の中の作文(授業中の学習態度について書かれた例) 資料1
	学習態度の実態を知らせ、問題点に気づかせる。	○授業中の学習態度で良くない点はどんなことだろうか。 ○今、どんな問題点があるだろうか。	○個人・学級全体の授業中の学習態度についての実態調査結果(TPシート) 資料2 ○教科担任からの伝言(TPシート)"今、こんな学習態度が目につく" 資料3 ・個人や学級全体が現在かかえている問題点を資料などから気づかせる。
展 開	自分たちの学習態度と良くない原因を見つめさせる。	○どうして授業に集中して取り組めないのだろうか。 ○どこに原因があるのだろうか。	・個人だけでなく学級全体の意識や雰囲気左右されることに気づかせる。 ・学習態度が悪くなる原因として、個人に問題があるとともに、学級全体の雰囲気にも大きく影響されることに気づかせる。そして、学級全体として真剣に学習しようとする士気を高めていくことの必要性に気づかせていきたい。
	解決の方法を考えさせる。	○良くない点を解決するためにどうしたらよいだろうか。 ○どの方法が問題解決に良いだろうか。	・表面的にせず立て前ではなく本音で話し合わせ、実現可能な解決方法をお互いに見い出せるようにさせたい。 ・グループで話し合わせ、それを発表し合う。
整 理 ・ 発 展		望ましい学習態度についてまとめ、実践への意欲を喚起させる。	・予習・復習の重要性、グループ内での協力や励まし、学級の士気の大切さをおさえる。 ・各教科毎の授業について、学級会活動と教科係の仕事と関連させて話し合わせたい。

資料 1 生徒の作文

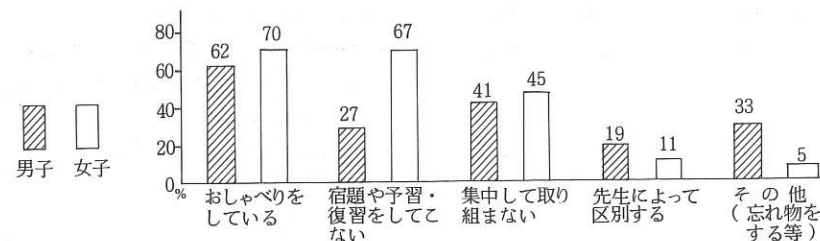
「このごろ、私たちの学級は、授業中に私語を平気でしたり、宿題忘れをする人がふえてきたように思います。きょうの5校時の社会の時間に、S先生が、「だれだ。勝手におしゃべりしているのは。友だちの発表をもっと真剣に聞きなさい」と大きな声でおこりました。特に3班の人たちがおこられました。1学期のようなまじめな学習態度がなくなってきました。私は、今日もまた、先生方におこられるかと思うと気が気でありません。……………(T子)」

資料 2 学習態度についての実態調査結果(TPシート)

問1. あなたは、毎日の授業を真剣に受けていますか。 問2. 最近の学級の授業の学習態度についてあなたはどのように思いますか。



問3. 良くない点はどんなことですか。(2つまで選んでよい)



資料 3 教科担任からの伝言(TPシート)“今、こんな学習態度が目につく”

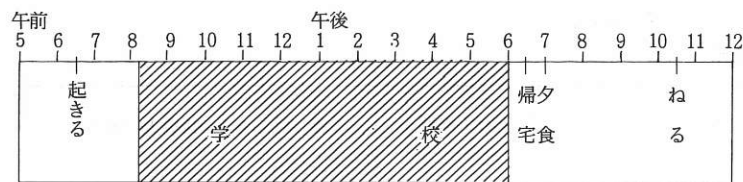
国語 最近の4組は、授業中の発言が少なくなってきたようだ。
 社会 授業中の私語が多くなってきたのは、とても残念だ。
 数学 宿題や復習をもっときちんとやってほしい。
 理科 実験の時には先生の話をよく聞いて行おう。
 英語 私語が多い。授業中はもっと真剣に取り組むこと。
 音楽 合唱の時、指揮者と心を一つにして歌おう。みんながばらばらに歌っている。
 美術 特に問題がない。しかし、二、三の人がまじめなのが気になる。
 家庭 私語が目立つようになってきている。
 保体(男) もっとファイトがほしい。
 保体(女) みんなまじめに取り組んでいる。

- 主 題 名 家庭学習を見直し、真剣に取り組もう (1年)
- ね ら い 家庭学習の意義を考えさせ、予習・復習の日常化と平均化をめざし、良い学習習慣を育てる。
- 指導過程

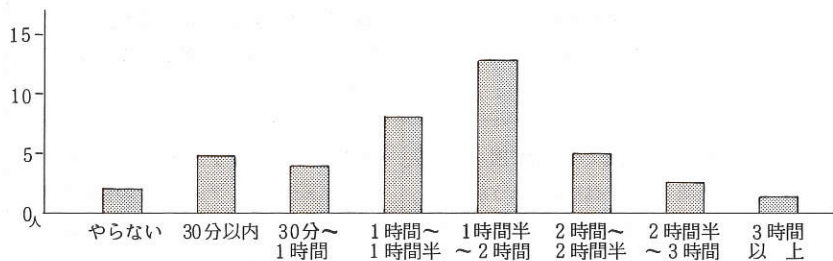
指導段階でのねらい		教師の働きかけ(発問)	資 料(○)・指導上の留意点(・)
導入	家庭学習の実態を知らせ、問題点に気づかせる。	○家庭では、みんなはどんな生活をしているのだろうか。 ○今日の学習で中心となる問題点は何だろうか。	○学級全体の生活の実態調査(TPシート) 資料1 ○個人の実例(TPシート) 資料2 ・個人差が大きいことに注目させ、こうした状況から脱することが今、必要になっていることに気づかせる。
	家庭学習で困っていることと問題点を見つめさせる。	○家庭での学習で困っていることはないだろうか。 ○家庭学習ができないのは、どうしてだろうか。 ○テレビやファミコンなどへの対策はしているだろうか。	○生徒の意識調査(TPシート)とテレビ・ラジオ・テープ・ファミコンの視聴時間(TPシート) 資料3 ・余暇の時間の使い方により一層の工夫が必要であることに気づかせる。
展開	家庭学習の意義を考えさせ、計画表の必要性を知らせる。	○どうして家庭学習が大切なのだろうか。 ○家庭学習の計画表は必要だろうか。	・毎日の予習や復習が授業につながり、授業の学習内容がより理解できること、家庭学習の習慣化が大切であることを知らせる。 ○家庭学習の計画についての調査(TPシート) 資料4
	実践例を通して家庭学習を確かめる。	・級友は家庭学習をどのようにしているのか確かめてみよう。	○一週間の家庭学習の計画表と実施表の具体例(TPシート) 資料5 ・級友に発表させ、工夫したことをたずねる。
発展	実践の意欲を喚起させ、学習計画を立てさせる。	・中間テストに向けて、自分の課題として各自が努力していこう。	・自分にあった方法と計画を実際に立てさせて、個別指導へと発展させていきたい。

資料 1 生活の実態調査 (TPシート)

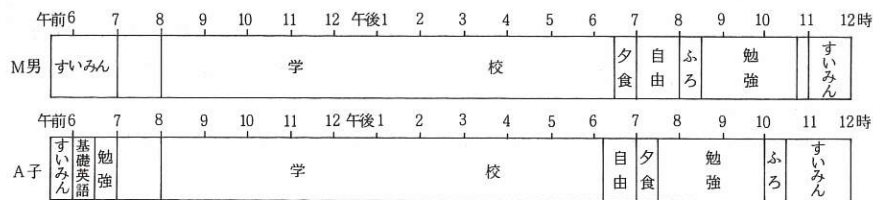
○ 平均の生活時刻



○ 平均家庭学習時間 (対象生徒数 42 人)

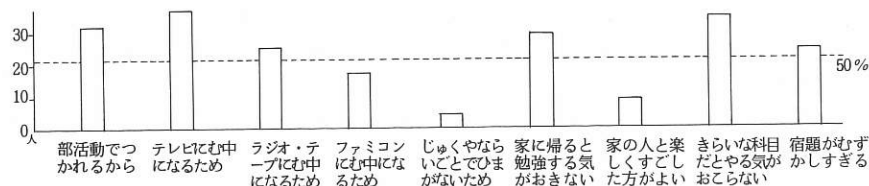


資料 2 生活時間の個人の事例 (TPシート)

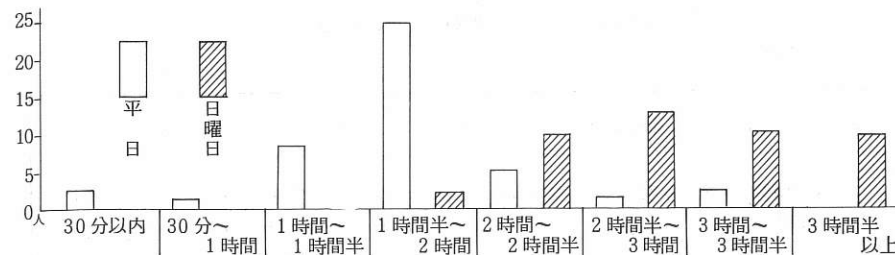


資料 3 生徒の意識調査 (TPシート) (対象生徒数 42 人)

問 1. 家庭学習ができない理由はどうしてですか。(いくつ選んでもよい)



問 2. あなたは、テレビ・ラジオ・テープ・ファミコンにどの位の時間を使っていますか。



資料 4 家庭学習の計画についての調査 (TPシート) (対象生徒数 42 人)

問 1. あなたは、日ごろ、家庭での勉強の計画を立てていますか。一つ選んでください。

- ① いつも立てている 3人 ④ ときどき立てている 15人
② あまり立てていない 11人 ⑤ 立てていない 13人

問 2. ①, ④と答えた人だけに質問します。立てていないのはなぜですか。一つ選んでください。

- ① 計画を立てなくても勉強できるから 2人
② 気が向いたときだけ勉強することになっているから 1人
③ 計画を立てても実行できないから 8人
④ 計画を立てるひまがないから 5人
⑤ 宿題だけで終わっているから 4人
⑥ 計画を立てるとかえって勉強しにくいから 4人

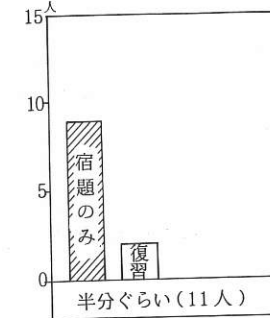
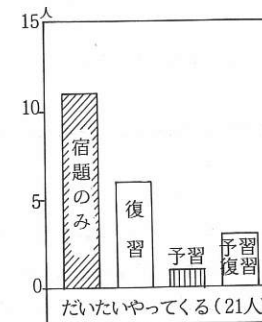
資料 5 家庭学習の計画表と実施表の具体例 (TPシート) (略)

1. 主 題 名 家庭学習の方法を見直そう (2年)
2. ね ら い これまでの家庭学習をふりかえり、その必要性を再認識させ、自分に合った方法で予習、復習などの自主的な学習ができるようにする。
3. 指導過程

指導段階でのねらい	教師の働きかけ(発問)	資 料(○)・指導上の留意点(●)
導 入	家庭学習の実態を知らせる。	○家ではどんな学習をしているか。 ○家庭学習の実態(TPシート) 資料1 ・現在の学級の実態からみて、宿題のみやってくる、宿題すらしない生徒が多いことから、家庭学習の問題点に気づかせる。
	予習、復習の必要性に気づかせる。	○家庭学習では、宿題をするだけでいいのだろうか。 ・授業との関連から、この状態から脱する必要があることに気づかせる。
展 開	予習、復習の大切さをわからせる。	○予習、復習をしてよかったことはないか。 ○なぜ予習、復習が大切なのだろうか。 ・予習、復習をしてよかったことなどを生徒に体験発表させる。
	望ましい家庭学習の方法について考えさせる。	○予習、復習はどういったらいいだろうか。 ・先輩の話聞いてみよう。 ・教科担任のアドバイスを聞こう。 ○ある先輩の勉強法(録音テープ) 資料2 ○教科担任のワンポイントアドバイス 資料3 ・教科学習係が教科担任より聞いてきたワンポイントアドバイスを係の代表に発表させる。
整 理	自分に合った家庭学習についてまとめさせる。	・家庭学習について、各自でまとめてみよう。 ・自分に合った家庭学習の方法について、ノートに書かせ、新たな気持ちで取り組めるようにさせる。
発 展	実践への意欲を喚起させる。	・今まとめた家庭学習の方法を、今後実行するようにしよう。 ・今後とも学級全体で、教え合い学習などで協力し合って学習するように指導する。 ・宿題もできない生徒に対しては、その原因をさぐり、教科担任と連携をとりながら個別指導を行うようにしたい。

資 料 1 家庭学習の実態(TPシート) <対象生徒数40人>

- (1) 日ごろ宿題をやりますか、一つ選んで下さい。
1. だいたいやってくる(21人) 2. 半分ぐらい(11人) 3. ほとんどしない(8人)
- (2) 宿題以外にどんな勉強をしていますか、一つ選んで下さい。
1. していない(28人) 2. 主に復習だけ(8人) 3. 主に予習だけ(1人)
4. 予習、復習(3人) 5. その他 (0人)



資 料 2 先輩の勉強法(録音テープの要旨)

- (1) A君の場合
 - ① 決った時間に自分の机にむかう。
 - ② 教科書を読む。
 - ③ ノートを読み返し、先生が言われたことを書き加え整理する。
 - ④ 大切に覚えなければならない所を色鉛筆でアンダーラインを引く。
 - ⑤ わからない所にも印をつけ、参考書などで調べる。
 - ⑥ 基本問題、ドリルの問題を解き、学習したことをしっかりつかむ。
 - ⑦ ⑤でわからないときは、友だちや先生から教えてもらい、必ず解決しておく。
- (2) Cさんの場合
 - ① ノートは、注意書きを入れたり、内容によって色を決めてアンダーラインを引き、見やすく、覚えやすく、自分なりに工夫する。
 - ② 漢字や英単語などは、広告の裏に何回も書いて覚える。
 - ③ 英語は大きい声を出して、暗しょうできるまで読む。
 - ④ 自分で問題を作り、自分で解いてみる。
 - ⑤ 教科書で明日勉強するところを必ず読んでいく。

資 料 3 5教科の各教科担任からのワンポイント・アドバイス

教科	予 習	復 習
国 語	・感動したところなどをノートに書く。 ・辞書はいつも側に置き調べる。	・新出漢字は書けるように練習する。 ・教科書の「ことばの学習」を必ず書く。
社 会	・次時に学習するところを読んでおく。 ・わからないところに印をつける。	・自分でノートに書き加え、まとめる。 ・毎日、新聞に目をとす。
数 学	・次時に何を学習するか調べておこう。	・今日学んだことを反復練習する。 ・計算のドリルは毎日する。
理 科	・次時の学習内容をみておこう。	・ノートの整理は必ずする。 ・実験などでわかったことをまとめる。
英 語	・次時に学習するところに目をとす。 ・新出単語の発音や意味を調べる。	・英文を大きい声で何度も読み覚える。 ・新出単語を書けるようにする。

1. 主 題 名 勉強と人生について考えよう (3年)
2. ね ら い 人間の成長を図り、社会人として必要な教養を身につけるために勉強しようとする意欲と態度を育てる。
3. 指導過程

指導段階でのねらい	教師の働きかけ(○発問)	資 料(○)・指導上の留意点(・)
導 入	人間はなんのために勉強するのかについて考えさせる。	○学級全体の実態調査(TPシート) 資料1 ・受験のための勉強という率直な意見も大切に扱っていく。
展 開	正しい意味の勉強について見つめさせる。 人間にとって教養とはどんなものであるかについて考えさせる。 自分のこれまでの勉強への取り組み方を振り返らせる。	○受験のための勉強はいけなのだろうか。 ○正しい意味の勉強とはどんなものであろうか。 ○「人間的な芳香みたいなもの」とはどんなものか。 ○「ものごとをいろんな角度から考える」ためにはどうすればよいか。 ○自分の勉強の目的と態度はどうであったろうか。 ○勉強に喜びを感じたことはなかったか。 ○資料2を読ませ、現在の社会の実情から、受験中心の勉強に陥ることもあろうが、正しい意味の勉強には、もっと広く深い意味があることに気づかせたい。 資料2(プリント) ・社会人として必要な教養とはどんなものか、生徒なりの考え方をさせる。 ○資料3を読ませ、教養も、つまりは、日ごろの勉強の積み重ねによってできあがるものであることに気づかせる。 資料3(プリント) ・教養を深めるために読書以外の方法も考えさせる。 ・これまでの各自の勉強への取り組みを資料3などとも対比させながら、じっくりと見つめさせる。 ・テスト結果の良し悪しだけでなく、問題解決や発見の喜びなどを多くあげさせたい。
整 理 ・ 発 展	これから勉強するときの心がまえについてまとめさせる。	・お互いの発表内容を参考にさせ、各自の今後の心がまえを決意させるとともに、残された中学校の勉強に真剣に取り組むようにさせる。 ・教師の体験談を加え、勉強が人生に役立っていることを強調し、実践意欲を深めさせる。

資 料 1 「なんのために勉強するのか」 学級の実態 (対象生徒数43人)

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| ① 高校に合格するために (31%) | ② 知識や技術を得るために (14%) |
| ③ 将来の就職に役立てるために (19%) | ④ これから生きていくのに役立てるために (11%) |
| ⑤ 自分の成績を上げるために (10%) | ⑥ 親や先生からもっとほめられたいために (5%) |
| ⑦ 勉強することが楽しいから (5%) | ⑧ 特にない (5%) |

資 料 2 生徒作文 「なんのために勉強するのか」

ぼくたちは「なんのために勉強するのか」と人に聞かれることが多い。ぼくはそのたびに困ってしまう。「よい高校に受かり、有名大学に入って、よい会社に就職するため」こんな答えはあまり感心したものではないと思うが、正直のところ、これしか答えられない。またクラスの友人も、ほんとうのことはぼくと同じ考えなのではないかと思う。その証拠は、最近のクラスの状態だ。全員進学や就職が決まった今、授業態度や学校生活が乱れている。

しかし、この間、ある本を読んでいたから、「なんのために学校に来るのか」という質問に対して次のような答えが出されていた。

- | |
|----------------------------------|
| ① 学校に来ないでぶらぶらしているとかつこうが悪いから (5%) |
| ② 将来出世したいから (24%) |
| ③ 学校を出ていないと就職がむずかしいから (7%) |
| ④ 社会人として教養がないと恥ずかしいから (52%) |
| ⑤ 学校に来るのが習慣になっているから (12%) |

これを見て、ちょっと考え込んでしまった。「④社会人として……」というのが最高だ。ほんとうにみんなはこう考えているのか。高校に合格するために学校に来て勉強するというのが本音ではないのか。でも、高校に合格した今、それだけではないような気もしてならない。社会人としての教養とはどんなものだろうか。教養を身につけるための勉強とは何だろうか。ぼくはこの問題に取り組んでみなければならないと思っている。

資 料 3 「教養について」 堀 秀彦 社会思想社(教養文庫)

教養というものは、その人その人のもっている一種の^{ほんとう}人間的な芳香みたいなものだ。肌ざわりといいかえてもよい。とにかくやわらかく、私になじんでくれる人格の雰囲気なのだ。

それじゃどうしたらそういう態度を人はもつことができるかという問題だ。かんたんに言えば、ものごとをいろんな角度から考えることを学ぶことによって、そういう教養のある態度が自然に生まれてくるのであろう。一つのものを一つの面からしか考えない——たとえばお金というものを使う面からしか考えない。それはだめなのだ。そして一つのものをいろいろな角度からながめるためには、わかりきったことだが、さしあたっていろんな種類の本を読むことがいいようだ。

※ 芳香………いいにおい

5 学業指導の実践事例

学業指導は、学級担任を中心として学校生活のいろいろな場面で行われている。次に示す実践事例は、前年度の調査研究によってとらえた学業指導上の問題点を把握し、それぞれのテーマで県内の中学校の研究協力者に依頼して実践研究を行い、考察を加えたものである。

(1) 家庭学習の指導をととして学習習慣を身につけさせた指導

1 生徒の実態と問題点

中学校へ大きな期待と不安をいだいて入学した36名の生徒たちは、次のような学習上の問題点をかかえている。

- (1) 学習に対する意欲はあるが、各教科の内容や方法などがつかめず困っている。とくに、家庭学習のし方がわからない生徒がほとんどで、このままにしておくとう学習意欲の減退につながり、ひいては学校生活にうまく適応できなくなるおそれもある。
- (2) 国語の読み書き、数学の計算など反復学習を必要とする教科を苦手としている生徒が多い。新しく習う英語を不得意とする生徒も多くでてくると考えられる。家庭学習の習慣を確立させなければならない。
- (3) 宿題を中心に家庭学習をしている生徒が大部分である。自分で決めた学習課題に重点をおき、自主的、計画的にすすめられるように個に応じた家庭学習の習慣づくりのための指導を工夫していかなければならない。
- (4) 保護者の教育に対する関心はあるが、共稼ぎ、兼業農家が多く子どもの教育は学校まかせになりがちである。

テレビやファミコンに夢中になりすぎている生徒もいるので、リズムのある家庭生活を送らせ基本的学習習慣と学習習慣を身につけさせなければならない。

2 指導の方針

これらの生徒たちに、家庭学習のし方を身につけさせ、3年間の学業生活を円滑に送らせる土台づくりをしなければならないと考え、4月以来学業指導に力を入れてきた。

- (1) 生徒理解（一日1回の生徒との対話、教科担任との連絡、班日記や家庭学習記録カードの点検等）
- (2) 定期的に面接相談を実施する。（6月、11月の教育相談旬間）
- (3) 家庭学習の計画を作成させ、内容や方法について助言する。（学級指導、終わりの会、個人指導）
- (4) 各教科担任と連携をとりながら、学習のし方について指導する。（自主ノート、教担当者会、随時）
- (5) 各教科担任から、授業の中で、学習のし方について指導してもらう。
- (6) 互いに協力し教え合いながら勉強していこうとする学級づくりに努力する。（班づくり、教え合い学習）
- (7) 目的意識をもって学習に取り組めるように、進路に目を向けさせる。（学級指導、教育相談）
- (8) 家庭との協力をはかる。（家庭訪問、保護者会、授業参観、電話連絡等）

3 指導の経過

〈4月〉

- 教科別ワンポイントアドバイス表（P27参照）作成く学級指導 教科によって教師がかわるのは生徒にとって楽しみな半面、不安でもある。授業に早く慣れさせるため、あらかじめ各教科担任からワンポイントアドバイスを取材しておき、それを表にして配布した。それをういながら各教科の学習のし方を説明した。中学校で初めて習う英語については、最初の授業の時に、教科担任から辞書やノートはどんなものを使用したらよいか、予習・復習のし方などについてよく聞くよう指導した。また、次時の学級指導の時間にワンポイントアドバイス表を生かして、自分に合った家庭学習の計画を立てさせた。そうすることによって、担任は個々の教科の学習に対する生徒の感じ方をつかむこともできる。各生徒の計画表を点検し、助言を与えた。
- 新入生保護者会で家庭の協力を呼びかけた。中学校生活を説明し次のようなことを保護者にお願いをした。親子で将来の夢を語り合う、2時間の家庭学習、宿題はその日のうちにする、励ましや賞賛を惜しまないなどである。
- 助け合う学習集団をつくる班づくりを行った。男女混合6人で生活班をつくり、国・数・社・理・英の学習係をおき、班学習の中核とする。金曜日の終わりの会を班学習の日と定め、教え合い学習を進めた。また、新しい班のスタートとしては、まず班員で「はり絵」を共同で製作した。たいへんだが、協力性や集中性を生むようである。

〈5月〉

- 2時間の家庭学習を目標とし、時間の確保と継続のため、家庭学習記録カードを配布する。学校生活にもや慣れ始めた5月の初め、家庭学習の習慣化をねらって記録カードを渡した。各教科の学習時間が色別になっているので指導がしやすい。カードは毎日提出させ、点検し、感想など書き添えた。
- 家庭訪問のとき、家庭学習のし方、意義、大切さを親の前で話した。
- 自主学習ノート（数学、英語ワンデーワンページ）を使用させる。数学や英語の習慣化をねらってはじめ、毎朝、班長が集めて担任へもってくる。1ページ以上書いてあるものに、シールを貼り、努力を賞賛する言葉を心をこめて書き添える。他の教科もノートを準備し、やってくるようになった生徒もでてきた。それらのノートを展示したり、終わりの会で紹介したりした。
- テスト勉強のし方と学習計画の立て方の指導く学級指導 はじめての中間テストなので、2週間前に勉強のし方を各教科ごとに説明した。計画の作成は、終わりの会の時に一日ごとの計画を立てさせ、助言した。実施状況を毎日点検した。その後の定期テストも同じような取り組みをさせた。

〈6月〉

- 教科担当者会で学級担任と教科担任との連携をはかった。各教科担任から、各学級の授業中の雰囲気や個々の生徒の学習と生活の様子などについて、情報の交換をし合った。そのあと、学習面であつまずいている生徒が生活面でも問題を起している傾向があるので、なんとかしなければという話になった。なにをどのような方法で学習したらよいかわからない生徒もいるので、授業と家庭学習が結びつくような指導過程を組んでくれるように、担任から教科担任にお願いした。

社会科では、次のような授業の流れを工夫した。①予習プリントの配布 ②教科書を読み、プリントを書く ③プリントを中心に授業を進める ④授業で習ったことをノートにまとめる。⑤ノートを提出させる。⑥点検し、まとめ方のすぐれたノートに努力のシールと賞賛の言葉を心をこめて書く。

○ 教育相談で生徒理解を深める。

1回目(6月)集団の中での適応状況を知るため、学校生活の感想や悩み、家庭生活の様子を聞いた。

2回目(11月)進路意識にめざめさせるため、中学校を卒業してからの生き方や将来の夢を聞いた。また、学習上の悩みを克服するための手がかりについての助言をした。

〈7月〉

○ 親子一緒に、夏休みの生活・学習計画を立てさせた。〈学級指導〉はじめての夏休みであるので、生活のリズムを狂わせ、2学期の学業生活に支障をきたすような生徒がでてこないことを願った。また、はじめて中学校へ子どもを入れる家庭などもあり、どのように夏休みを過ごさせたらよいかわからない家庭もある。そこで、規律正しく楽しい夏休み生活を送らせるためには家庭の理解と協力が必要だと考え、通知箋配布当日の授業参観日に、親子が一緒に夏休みの計画を立てる試みをした。夏休みの生活・学習計画表等を準備し、生活や学習面で留意すべきことや計画作成上のポイントなどを説明した後、親子が一緒に計画を立てた。

〈9月〉

○ 英語科担任との連携に努めた。授業内容が難しくなり、授業についていけない生徒も見られた。授業内容の定着をはかるため、教科担任は生徒全員に予習、復習用のノートを持たせた。そのノートを学級担任が毎日集めて教科担任へ持っていく。ノートのとり方やつづりの誤りなど、一人一人に時間をさいて指導してもらっている。

○ 1週間の生活表を作成させた。11月からは下校時間が早まり、忙しかった学校生活も落ち着きをとれどす時期である。今までの家庭生活をみなおし、生活の中に学習計画をもたせ実践していこうとする態度を育てることをねらいとした。

〈11月〉

○ 教科別学習法交換〈学級指導〉1年生も半ばを過ぎると、各教科の学習内容も次第に難しくなり、学習に対する興味を失ったり、投げ出したりしやすくなる。数学や英語などここであきらめると、2年、3年になってさらに困ることになるので、次のような段階をふむ授業をしこんだ。

①個人が家庭学習のし方を公開する。②班の中でそれを参考にしながら、学習のし方を考える。

③班ごと考えた学習のし方について意見を交換し合う。④教科担任の助言を受ける。⑤個別指導につなげる。

4 指導の結果

なかなか学習に意欲的に取り組めなかったS子は、班日記に「私は、今までは机に向ってもすぐあきて学習が続かなかったが、この頃は楽しくできるようになり、とてもうれしい。勉強のしかたを覚えたからだろうか。」と書いているが、他の生徒も次のように変わってきたように思える。

(1) 学習に対する不安をもつ生徒が少なくなり、落ち着いて学習などに取り組めるようになった。

(2) リズムのある家庭生活を送り、時間の利用のし方もうまくなった。

(3) 学習課題をもち、より良い学習の方法を工夫しながら学習に取り組む生徒もでてきた。

(4) 積極的に学習に参加しようとする生徒がふえてきた。

(5) 学習の内容やし方について、わからないことをそのままにせず、友だちや教師に質問するようになった。

5 反省と今後の課題

さまざまなやり方で、できるだけ機会をとらえて指導を加えてきた。生徒の学習に対する姿勢が少しずつ変わってきているのを見て、どの指導も大切であると思う。基礎学力が不足している生徒については、特に力を入れて指導してきたが、残念ながらまだまだである。今後、教科担任とさらに連携しながら、くり返し指導をしていかなければならない。

〔 考 察 〕

この実践例では、学級担任が家庭学習を重視し家庭学習の習慣を身につけさせていくために、学習のし方や学習計画の立て方などをどのように指導していったかを取り上げている。

学級担任が、学習のし方や計画の立て方の指導の中で、さまざまな創意工夫ときめ細かな指導を積み重ねていくことによって学級の生徒たちが次第に変わっていく様子がうかがえる。

学級担任は、指導を進めていく中で、特に目だつのは教科担任との緊密な連携・協力をはかっていることである。教科別ワンポイントアドバイス表の作成をはじめとして、さまざまな形で教科担任からの援助を得て指導の効果を高めていることがうかがえる。これは、日ごろからの学級担任、教科担任など教師間の信頼関係があってできることであろう。

学級担任は、家庭の理解と協力が必要だと考え、親子一緒に夏休みの生活・学習計画を立てる授業を試みるなどの工夫と努力をしている。学校まかせになりがちな親の考え方を変えさせ、生徒の家庭学習の習慣化にも良い影響を与えていったように思われる。

また、学級担任は、事後指導を重視していることがわかる。生徒一人一人のノートや計画表などをそのつどきめ細かく点検し、助言している。実行することは、なかなかたいへんであるが、とても大切なことである。

また、教師が生徒の努力などに対して、心から認め、ほめ励ましていくことも、生徒の意欲を高めていくものである。

今後とも、生徒理解をより深め、個別指導も重視しながら、これまでのきめ細かい指導を継続して欲しいものである。

(2) 学級の雰囲気づくりをとおして学習意欲を高めた指導

1 生徒の実態と問題点

本校には、二つの小学校から生徒が入学してくる。どちらの小学校とも、1学級ずつの学年で、6年間を同じ級友同士で過ごしてきている。期待と不安をもって中学校に入学してきた生徒たちは、学業生活のうえで、次のような問題点をかかえている。

(1) 中学校での生活や活動の方法がわからず、とまどっていたり、それぞれの小学校のやり方を主張

し言い合いをするなど、協力性に欠ける面が見られる。

- (2) 活発で行動的であるが、自己中心的なところがあり、授業などで誤ったことを答えたりするとひやかししたりする傾向があり、自由に発表できないことがある。
- (3) 授業中、集中力に欠けてぼんやりしていたり、できないと思いこんでいて学習に積極的に取り組めない生徒も少なくない。このままにしておくと、学習意欲を失ってしまうことが心配される。
- (4) 女子に比べて、男子生徒は学力が低く学習への努力が不足している。

2 指導の方針

学級の中に、互いに認め合い助け合い、協力しながら活動していこうとする雰囲気をつくっていききたい。そして、そのような雰囲気を学習活動に転移させ、一人一人の学習意欲を高め、積極的な学習態度を育てていきたい。

- (1) 班活動や係活動を充実させ、班員相互に認め、励まし合わせて円滑な人間関係を育てていく。
- (2) 学校行事に積極的に取り組ませることをとおして、自分たちで定めた目標を協力しながら達成しようとする学級の雰囲気を育てていく。
- (3) 班活動・係活動や学校行事をとおして育てた人間関係や学級の雰囲気を次のような方法で学級活動に転移させる。
 - ① 学力向上係など各係の積極的な活動をはかっていく。
 - ② 教え合い学習をすすめさせる。
 - ③ 学級指導や個別指導をとおして、学習意欲や態度を高めていく。

3 指導の経過

- (1) 円滑な人間関係をつくるために — 班活動・係活動を通して —

学級のだれとでも協力して活動できることを前提として、生活班（男女混合、5～6名）を6班編成とした。それぞれ、班の中で、意見を交換し合いお互いの良さや長所を理解し合っているという思いがあった。また、失敗したときには、互いにカバーし合い支え合うことの大切さを体験してはいるという思いがあった。

6つの班は、それぞれ、合唱係、レクリエーション係、学力向上係、教室環境係、情報係、奉仕活動係のいずれかを分担することとした。木曜日が学級活動優先日となっているので、各班はそこで活動計画を立て、朝の会や終りの会、休み時間などに活動を行った。

本校では、生徒会役員で合唱委員会を組織して、全校生の合唱を保護者会で発表したり、卒業式を合唱で感動的なものにしようという力を入れている。また、合唱コンクールは文化祭の主たる企画の一つでもある。こうした状況が背景にあるので、合唱係の活動は、いきおい、活発となった。また、レクリエーション係は毎日5分程度の班対抗ゲームを続けた。毎日となると、なかなかたいへんであったが、創意工夫しながら活動した。

なかなか時間もおかるし、指導の根気も要したが、班活動や係活動を通して少しずつではあるが学級内の小集団におけるまとまりと相互の協力や班長の指導性が育ってきたように思える。

- (2) 学級全体のまとまりと協力をつくるために — 学校行事への積極的な参加をとおして —

さまざまな学校行事があり、そのつど、積極的な参加を求めて指導を加えてきた。11月の文化祭も大きな行事で、1つのテーマのもとに全校生徒が取り組む。生徒によっては、専門委員とし

て準備をし学級の一人として合唱に参加し、学級文化コンクールの展示品を作らなければならない。この文化祭に積極的に取り組ませる指導に力を入れた。

- ① 指導にあたって留意したこと

文化祭に取り組むにあたって、単に勝敗や順位などについての目標でなく、それぞれの活動場面での目標を立てさせた。例えば、自分たちの作るものは期限まで責任をもって完成させること、借用したものはきちんと責任をもって返すこと、後かたづけをきちんとすることなどである。レクリエーションの長なわ跳びについては、全員声を出して合わせることに、50回跳ぶことを目標とした。そして、これらの目標や作業の進行状況、活動状況について、毎日の終りの会で反省させた。また、合唱練習については合唱係で、学級文化コンクールについては学級委員及び班長会で話し合わせ、指導した。

- ② 文化祭への取り組み

学級文化コンクールでは、学級の出し物はインカ文明とマヤ・アステカ文明を取り上げた。班長会がリーダーシップをとりながら、模型・衣服・絵・説明等の作成の分担がなされ全員協力して取り組んだ。合唱は、他学級より早く仕上がっていき、テープに録音して上級学年にも聞いてもらい更に工夫を加えるという積極さであった。

- ③ 文化祭への取り組みをとおしての生徒の変容

合唱、学級文化コンクール共に入賞できなかったが、生徒たちは自分たちで定めた目標が達成されて満足していた。また、この文化祭への取り組みによって、学級の一人としての所属感が高まり、協力しながら一つのものに取り組む、作りあげていく喜びを得たようである。それが、文化祭最終日のレクリエーション大会の長なわ跳びで53回跳び優勝できる学級の力ともなったように思う。

- (3) 学級の雰囲気や力を学習活動へ転移させる。

- ① 係活動が積極的になされるように指導していった。学力向上係は、自分たちの活動の内容について話し合った結果、朝自習への取り組みと、時間になったら着席し授業の始まりを静かに待つことの2点について学級全体へ働きかけをしている。また、少しでも学級の学習意欲を高めるために、授業で学んだことを要約し掲示できるように努めている。着席については、学級の多くの生徒の呼びかけ合いがあり、授業にすぐに取り組んでいる。朝自習についてはまだ十分とはいえないが少しずつ定着しつつある。

- ② 教え合い学習の発展をはかっている。学力向上係が中心となって、生徒会学習委員会主催の全校理科テスト参加を積極的に働きかけた。教え合い学習がなされたせいか、はからずも、2年生や3年生を抜いて一位となることができた。合唱係は、歌や笛の実技テスト前日に、終りの会で練習をさせ家でも練習してくるように働きかけた。また、日ごろ、あまり成績のふるわない男子生徒が最近急に学習に努力しだしているのに気づき、たずねたところ、隣席のよくできる女子生徒が彼の自学自習ノートを見てはめてくれ多少の助言をしてくれたからだという。担任として、なんともいえず心強く、また教え合い学習の大切さを改めて教えられた。こうして、さまざまな面で生徒たちの学習意欲の高まりが見られるようになってきている。

- ③ 学級指導や個別指導をとおして、生徒たちの学習意欲を高めるため、学業指導に力を入れてき

た。学級指導では、進路のことにも目を向けさせながら学習の目的を考えさせたり、自分に合った学習方法・計画を創意工夫するように指導してきた。また、これらのことについては事後の個別指導が大切であるので、面接相談を数多く行うようにしたり、自学自習ノートを選出させ点検し助言を与えるようにしてきた。

4 指導の結果

学級の中に認め合い協力し合う雰囲気ができてくると、級友の誤った発表に対してひやかしたりする生徒はいなくなった。男子もこれまでの活動をおして、授業に対する集中力も増してきている。生徒相互に、わからないことを聞くことはまだ十分ではないが、わからない友だちに教えることはできるようになってきた。

5 反省と今後の課題

授業中の取り組み方は良くなってきたが、羽目をはずす時もあるので、そのような時は注意し合っておおすような態度を身につけさせたい。また、もっと積極的に聞き合い教え合うような学級の雰囲気をつくって、学習意欲がさらに高まるよう班長会や学力向上班でも考えさせていきたい。

〔 考 察 〕

学習意欲、学習態度は生徒個々人のあり方に関係すると同時に、学級全体の雰囲気による影響も大きい。そこで、この実践例では、まず学級内の小集団の良い人間関係とまとまりを、日々の活動の体験とおしてはかることをねらい、さらに学級全体へ広げる方法を考え、中間のリーダーを育てようとしている、注目してよい実践である。生徒たちの学習意欲が高まり、積極的な学習態度が出てきていることが、生徒たちのさまざまな動きの中に感じられる。学級の雰囲気が変化していったことが一つの大きな原因であろう。学級の雰囲気づくりということも学業指導の大切な内容であることがわかる。

今後、学習内容も深まり個人差も大きくなっていくので、自分に合った学習方法や計画を持たせる必要がある。それについての指導・相談を、もっと教科担任の力も活用していく必要がある。また、学習習慣を身につけさせていく必要もあるが、その際、家庭との協力ということが大切になってくるだろう。

(3) 進路をふまえて学習の意義や目的を理解させ、学習意欲を高めた指導

1 生徒の実態と問題点

進路に対する関心を知るために学習したい内容を調査してみた。その結果、職業に対する将来への夢や希望について学習したい生徒は、男65%、女65%、家庭や先輩など身近な人の職業を調査したい生徒は、男41%、女35%、自分が希望している上級学校や会社、事業所などを訪問し先輩の話を聞きたい生徒は、男45%、女65%、何のために働き、何のために勉強するのかについて学習したい生徒は、男50%、女40%ということで、自分の将来の進路計画についての学習に対しては関心がまだまだの状況である。むしろこれから始めるのだということが次の内容からうかがわれる。性格検査や適性検査をして調べたい生徒は、男77%、女75%、仕事につくための資格や条件を調べたい生徒は、男77%、女90%、高等学校のいろいろの学科についてどんな勉強をし、どんな職業につくか調べたい生徒は、男77%、女80%という実態である。

上記の調査内容から見ても、目的を持った学習意欲にはほど遠く、受け身的な学習状況である。進路に対して、高校に行きたくないが今の状況から考えるとしかたなく行く、親が行けというから行くという生徒もいる。一般的に考え方が狭く浅い。

2 指導の方針

現代の世の中を主体的に生きぬくためには学び続けることが必要である。中学校の課程では、学ぼうとする意欲をどれだけ自分のものにさせることができたかによって今後のことが決定されると思う。そして「学ぶこと」の意義の正しい理解と積極的な姿勢が「進路を切り開く力」の根底となる。

また、親の生き方を通して現実の生活を見せながら、生徒の考えをうわすべりな考えでなく、確かなものにしていきたい。

進路学習は一年生から系統的に学習を積んでいかないと、主体的に学ぼうとする姿勢ができてこないと思う。二年生として学習する内容を次のように組んでみた。①学ぶことの意義(勉強は何のためにするのか) ②働くことの意義(親の体験談から学ぶ) ③高校へ行く目的を考える(先輩の話を聞く、高校を調べる) ④学び方についての話し合いと実践

3 指導の経過

(1) 進路調査を実施する。

(2) 「学ぶこと」の意味をとらえる。

① 「勉強は何のためにするのか」という主題で授業をした。

「もっと勉強しないと高校へ入れないぞ!」とおどすだけでは本心からの学習にならない。ともするとつらいことから逃れようとして非行に走ってしまうケースもある。勉強の本来の役割を生徒達に問かけ追及していく中で、生徒達の視野が広がり、勉強への本物の意欲をつけさせることができるといった。

(3) 働く意味を考え合う。

親たちにプリントを書いてもらった。内容は、仕事についての動機、仕事に必要な能力や技能資格、仕事の苦勞や難しい点、仕事のやりがいや喜び、これを読んでの子供の感想ということでもまとめた。

① 冊子を使用して授業したこと

いろいろな職業について知ることができた。能力や技能資格のところで学ぶことの必要性が具体的につかめた。また、仕事のやりがいや喜びの中に、自分の仕事の人々の喜びや幸せにつながった時というのが多数あった。そして、その喜びがさらに勉強しようという意欲になったという親の心境を知ることにより、学問をする真の意味が少しわかったようだった。いろいろな角度から使えるこの冊子は好資料になったと思う。なんといっても親が書いたという点で共感を与えたのかもかもしれない。

② 生徒の感想

今考えてみると自分が今のままでいいのだろうか。将来のことを考えなくてもよいのだろうかと考えさせられた。

仕事につくにも大変だものすごく感じた。これから自分も同じ経験をするのだから、後で困らないようにきちんと頭の中に入れて、勉強するようにしたい。

(4) 「高校に進学する意義を理解させる」を主題に授業をした。

高校入学は新しい出発である。大切なことは入学後の生活の中でどう過ごすかであろう。しかし、何を学ぶために高校に入るのかということがはっきりしなくては、上記の目的がたせない。そこで下記のような内容の授業を行った。

〈本時の指導〉

① ねらい

高校へ進学する意義を理解させる。

他人の話から自己を深く見つめさせる。

② 指導過程

指導段階でのねらい	学 習 活 動	資 料(○) 指導上の留意点(・)
導 入	クラスの進学希望の実態を知らせ、その問題点に気づかせる。	・ クラスの高校への進学希望状況を知り、その目的について発表し合う。 ○ 「高校に進学する目的を考える」の学習プリント ・ 学習プリントを事前に書かせておき、それを発表させる。 ・ 進学の目的があいまいで主体性に乏しいことに気づかせる。
展 示	進学する目的を見つめさせる。	・ 高校に行く目的について話し合い、「私ならこう考える」について意見を出し合う。 ・ 「自分の進みたい道に入る」「みんなが行くからなんとなく」「中卒じゃみっともない」「中学で学んだことをさらに勉強したい」などの意見がでるものと思われる。 ・ 生徒の出した意見を各項目に分けて、掘り下げた話し合いができるようにさせる。 ・ 何を学ぶためにその高校に行くのかという目的をはっきりさせる。
開 発	今しなければならぬことを考えさせる。	・ 高校に入るために今しなければならぬことについて話し合う。 ・ 授業を真剣に受ける。質問をする。家庭学習のし方を考えるなどのことが話し合われると思われる。
整 理	他人の話から自己を見つめさせる。	・ 事前に親の意見を学習プリントの中に記入してもらう。 ・ 先輩の話は録音テープ(資料1)を聞かせる。 ・ 自分と比較させて、現実的な視点で考えを深めさせたい。
発 展	新しい問題に気づかせる。	・ 今後、もっと知りたいことやしなければならぬことについて話し合う。 ・ 高校の種類やどんなことを学ぶのかなどについてくわしく学びたいということがでてくると予想される。 ・ 今後の学習の進め方についてもふれる。

③ 資料

1 先輩の録音テープの紹介

・ 高校の学習内容、校内行事、部活動や交流会の様子

2 高校受験にあたって2年生として考えてほしいこと

希望校や将来への職業に対して目標を持つ。目標を持たないで何となく受験するのでは努力する力がわいてこないし、受験する人の学区が広いので、遠くから目標を持って入ってくる人になわなくなる。2年生の今のうちに志望する職業や高校を決めることだ。目標がはっきりすると、がんばる張り合いがでてくる。と自分の体験を混ぜた内容で話してある。目標のこと、特に職業については、おおまかにでも知っておくということで結んでいる。

これからの生活については、部活動と勉強を両立させるために、授業をしっかり聞く、わからないところはすぐ質問する。家庭ではノートを見直す、予習しておくなど、受験前のあせりをつくらないためにも毎日こつこつと学習することだと説明している。

2 先輩のテープを聞いての生徒の声

・ ぼくは運動部で本当に家に帰ってからの家庭学習する時間がとれなかったけれど、この話を聞いて、授業で真剣に勉強すればもっとよく頭に入ると思った。
・ 受験は3年生からではなくて、もう今からはじまっていると思う。勉強のし方を変えなくてはならない。今のままではだめだ。しっかりしなくてはならない。

4 指導の結果

授業中に落ち着きのなかった生徒が、「授業中にふざけたりしているともっと遅れてくる」という感想を述べている。2年生だからといって油断していたけれど、うかうかしていられない。目標を決めて、計画を立てて勉強していくべきなどと、高校進学に対して真剣に考えようとする生徒が多くなってきた。

5 反省と今後の課題

進路をふまえた学業指導は、学級会活動や道徳や教科の学習の中でも指導できる部分が多くある。生徒は、将来に対する希望をもちながら実り多いしかも意欲的な学習態度で学ぶことができると思う。教科の学習の中では、学んでいることが、現在のどの分野で社会の中に生かされているかを教えることも大切である。

〔 考 察 〕

本事例で取り上げた三つの主題は、学習意欲にかかわるきわめて重要な内容である。しかし、生徒にとっては、必ずしも切実な問題でないため、多くの場合せっかく取り上げても表面的になりがちである。これらの課題を生徒自身のものとして考えさせ、目的を持って主体的に学習ができるようにさせるためには、これらの課題を取り上げる時期、資料の作り方と使い方、授業の展開の仕方などについて十分な工夫と配慮が必要である。

本事例では、親と子で綴った手作りの「両親の職業と感想」という冊子の資料は、生徒に興味・関心をもたせただけでなく深い感動を与えた。また、先輩や親の生き方は、学習の大切さを心情的にも訴え、学習意欲を高めたものと思われる。これらの生徒達を変容させる背景となったものは、日ごろの担

任のためめ学級づくりであり、手作りの資料などを通して、教師、生徒と親の三者の信頼関係を確かなものとした担任の努力によるものと思われる。本事例の資料の選択と作成、活用の仕方などは大いに参考になるだろう。

また、指導者の反省にもあるように、進路をふまえた学業指導は、ある特定の時間の指導だけでなく、学級会活動や各教科の学習の中で、計画的に実施する必要がある。

(4) 面接による学業相談

1 E君の実態と問題点

- E君の知能偏差値は47で普通である。各教科の学力偏差値をみると、国語40、社会51、数学42、理科48である。社会と理科を除いては、国語・数学のいずれも成就値はマイナスとなっている。
- 授業では、真面目に受けようと思っているようだが、自分の思いとは違って、集中力に欠けずぐあきやすく、級友と私語をしてしまうことが多い。
- 落ち着いて学習に取り組むことが少なく、中途はんばで投げ出し、その場限りで自分をつくらうことが多い。
- 学校では、自己中心的な言動が多く、級友からの反発、反感を受けることがよくある。自分の思い通りにならないと、教師に対して泣いて訴えることもある。
- 家族構成は、両親と本人の三人家族である。ひとりっ子として甘やかされて育てられてきた。
- 父親は、おとなしい人で本人を叱ったりたたいたりすることはほとんどやっていない。母親は、本人に対しては過保護になったり、過干渉になったりすることが多い。
- 両親は、本人のことを考えて接しているつもりでいるが、結果的には、自分で考え、判断し、行動しなくても良いような状況をつくってしまっている。本人が母親から自立できない状態にあるだけでなく、母親自身が子どもから離れられない状態にあると言えるだろう。
- 一見して明るく素直そうに見えるが、気が小さく、わがままで感情の起伏が激しい。
- サッカー部の活動ではまじめに取り組んでいるが、仲間との話し合いに入れないことが多い。

2 指導の方針

(1) 面接相談を行うときの基本的な考え方

受 容……E君や両親の良いところを認め、本人なりの生き方や意見を尊重し受容する。

共 感……E君や両親と同じ目の高さで考え、語り、共感し合う。

信 頼……親和的な人間関係をもってお互いに信頼し合う。

(2) 本人に対しての指導・助言

- 投げやりな態度やあきらめを少しずつなくさせる。
- じっくりと落ち着いて物事に集中していくようにさせる。
- 学習への興味と関心をもたせ、学習意欲を喚起させる。

(3) 両親に対しての援助・助言

- 学級担任と親和的な人間関係ができるよう努める。
- 本人が自立できるようになるにはどうしたら良いかを共に話し合う。

3 指導の経過

4月に学級担任となって以来、E君との触れ合いの中であらゆる場面で指導してきた。教科担任をしている理科の授業、朝の会、終わりの会、放課後の時間、サッカー部の顧問としてサッカー部員の一人としてのE君との触れ合いの場があった。学年担当や教科担任からE君に関する情報を得ることもできた。

特に、夏休み以後は、チャンスをとらえて何度となくE君との面接を行っている。その一例を、私の記録をもとに紹介してみたい。

〈9月〉

同じ学級のA君が、私にこんな訴えをしてきた。それは、「ぼくたちが楽しく遊んでいると、E君が中に入ってきてじゃまをするので困ります。先生、どうしたら良いでしょうか。先生にE君を注意してくれるようにたのめませんか。」ということだった。私は、E君を放課後、理科準備室に呼んで面接をした。

T……学級担任 E……E君（以下同じ）

T E君、クラスの人と遊んでいて楽しいですか。

E 楽しい時と楽しくない時がある。

T おもしろくない時はどんな時。

E みんながぼくを仲間はずれにした時はおもしろくない。A君やB君は特に……。

T ほんとうはみんなと楽しくしたいんだろう。楽しくできない原因はどちらにあるのかな、E君。

E A君とB君にある……みんなにある。（涙を流しながら）

T 君にも何かたりないところがないだろうか。

E（30秒）はい、あります。（小さい声で）

私は、E君自身の心の中の葛藤を大切にしたいと思い、押しつけにならないようにした。この面接相談のあとでE君はやや明るさを取り戻したようだった。

学級のリーダーたちには、積極的にE君を仲間としてあつかってくれ、遊びにも誘ってくれるよう頼んだ。

また、家庭訪問を行い、学校でのE君のようすを報告した。他の人と楽しく遊びたい気持ちが強いが、わがままな言動が見られるので嫌われてしまっていることを話した。また、自制心がほしいことも話した。

〈10月〉

英語科の教科担任からE君の所属している3班の生徒たちが、最近、授業中真剣に取り組むようになってきたということを知った。私の理科の授業でも積極的になっているE君の変化に、私自身がとてもうれしく思っていた所でもあった。私は、他の教科の授業での3班やE君のようすを教科担任にたずねてみたが、どの授業でも大変良い傾向であることがわかった。私は、職員室にきたE君を呼んで話しかけてみた。

T E君。英語の先生が君をほめていたよ。

E（明るくうれしそうな表情で）ほんとうですか。／……なぜですか。／

T 君、英語の授業の受け方、違うでしょう。

E ……違う。……むだ話をしない。手をあげる。ちょろちょろしていないがら……。

T どうだ、E君。勉強、おもしろいか。おもしろい時はどんな時。

E ……手をあげて答えてはめられた時……そして、好きな先生の授業の時。

T なんて君は、手をあげて答えられるの。わかっていても手をあげて答えられない人が多いよ。そうでしょう。

E はあ。答えられるよ先生。／……答え、知っているもの。

T 答えられないよ。答えがわかる前に何をしなければならないの。

E 先生の話をよく聞いていないとだめなんだ。

T そう、そうだよな。よく気がついたね。大事なことは、よく話を聞くことだね。先生の話も友だちの話もみんな大事だ。君は立派にやっている。だから、手をあげて答えられるし、先生にもほめられる。そうすると、もっともっとその教科がおもしろくなるだろう、E君。

E (黙ってうなずいている)

T ところで、君には、もっとおもしろいと思う教科は他にないの。

E (少し考えこんでいる) 社会も少しおもしろい。でも自信ないな。

T 英語のようにうまくいなくても、英語のことを思い出して、集中してよく聞く努力をしてみようね。

私は、本人を激励するとともに、母親に電話で英語科の授業で教科担任からほめられたことを報告した。そして、本人から今日の私との話し合いを聞いてもらい、本人の努力をはめてほしいとお願いした。

〈11 月〉

E君とC君が職員室で国語科の教科担任の先生から説教されていた。説諭が終わった後で、私はE君と教育相談室に行き、面接を通じて、本人の話を聞いてみた。

T E君、きょうの国語の時間おもしろかったが。

E (ふてくされながら) ……おもしろくなかった。

T 勉強はしなければならないね。何のためにするの。

E 立派な人間になるため……良い高校に入るため。

T 君の考え方はすばらしい。ほんとだよ。でも、それはほんとに君の考え方。

E (沈黙30秒) ……違う。お父さんとお母さんの考え方。

T じゃあ、君の考え方、教えて。

E (沈黙50秒) ……わがんね。

T 君はわかりたい、かしくなりたいたいと思ったことあるでしょう。

E ある。／

T すばらしいことだ。／そこが大切なことだ。／E君、勉強はおもしろいことばかりではないよ。……むしろ、おもしろくない方が多いよね、E君。

E うん。

T 君は、勉強しておもしろかったという経験をもっているでしょう。何回もあるでしょう。

E うん。だけど、おもしろくない方がずっと多いよ。

T だから、国語の授業の時、投げやりであきらめた態度をとったのか。……そうだったのか。

E (沈黙20秒) 先生、／ぼく、勉強わかりたいよ。……だけど(涙を流しながら)

T 泣かないで、自分の気持ちを言ってごらん。

E (泣きやんでから) どう言ったらよいかわからないが、やろうとするとわからなくなる。すると、すぐむかむかしてきて、投げだしたくなる。

T そうか。そうか。先生もよくあったなあ。考えれば考えるほどわからなくなり、むかむかしてくる。自分がいやになってくる。……あれは6年生ころかなあ。……算数の問題がとけなくてとけなくて、涙がぼろぼろと出てきたっけなあ。……中学生の時もあったっけなあ。

E (沈黙2分間)

T 君のほんとうの気持ちを教えてくれ。

E 先生、ぼく、ほんとにわかりたいんだ。だけど、……わからなくてすぐあきてしまう。母にもおこられる。

T 簡単にわかる内容からやってみよう。絶対に、投げたりあきらめたりしてはだめだぞ。

E ……うん、がんばるよ。

その夜、私は家庭訪問を行い、本人との面接相談のようすを両親に話した。そして、家庭では、なるべく自分の力で考えさせ、学習できるよう努力させること、両親はあまり手をかけすぎないで見守ってほしいことをお願いした。

4 指導の結果

最近になって、E君は、授業中の学習態度に落ち着きが見られるようになってきた。友人関係は、以前よりはずっと良くなり、より気軽に友人の中に入ってつき合えるようになり、感情の起伏もあまりあらわれなくなってきた。教師との人間関係も良くなってきた。特に、学級担任との関係が良くなってきている。

5 反省と今後の課題

E君が心身共にたくましく成長するためには、両親の本人に対する考え方や接し方を変えていく必要があると思われる。両親の養育態度を変えていくことは非常にむずかしいことではあるが、「子の親離れ」と「親の子離れ」に目を向けさせていくことは、中学1年生の本人の自立にとっても必要なことといえよう。

日常観察だけでなく、面接相談を継続することの重要性を痛感している。それに加えて、日常観察や面接相談の記録の大切さを強く感じている。これからも記録をそのつど、きちんととっていきたい。

〔 考 察 〕

この実践例では、面接による学業相談をどのように進めていったのか、E君を一事例として取り上げている。学級担任は、あらゆる機会と場とを用いて、本人との親和的な人間関係がもてるように努めている。また、家庭訪問を重視し、両親との面接を通して、親自身も自分を見つめ、子どもを見直すことの必要性を感じている。悩みや問題をもった生徒自身と接することだけでなく、両親との面接を通じて親自身も変わっていくことに注目していることは、大変良い観点といえる。

また、学級担任は、日常観察や面接相談の記録、指導の記録の大切さを痛感しているが、示唆に富む

反省といえよう。生徒の指導記録は、自分自身の指導を反省し、点検するための資料となるし、次年度の引き継ぎにあたっても貴重な資料となる。形式にこだわらず、指導の経過がわかるものであれば良い。記録を残していくこととともに、その記録の保管と活用について配慮していくことも大切なことである。

近ごろ、教師みずからが、教育相談的な姿勢と態度とをもって、生徒一人一人に接していくことが重視されてきている。教師と生徒、生徒相互の人間接触を基盤として、教師が生徒自身の立場に立って共感的に理解し、受容的態度をとっていくこと。生徒自身の自己理解を深めさせ、生徒自身の自己決定の力を尊重し、共に考え、共に歩む姿勢や態度が大切であろう。

チャンス相談や呼び出し相談を取り入れていくこととともに、生徒から自発的に相談したくなるような教師となることを常日ごろからめざしたい。

(5) がんばっても成績が向上しない生徒の指導

1 Y子の実態と問題点

新年度の学級編成替えてY子の担任となった。3年生になった4月のはじめ、Y子は作文に次のようなことを書いてきた。「私、勉強しているわりにはテストの点数や順位がよくならないのです。どうしてなのでしょう。B高校に進学したいのですが合格できるでしょうか。そんなことを考えると、夜もほとんど寝られないのです。今の私は不安だらけで、しぼんでいます。」

さっそくY子を呼んで学校生活や家庭生活について話を聞いたところ、Y子の不安はかなり深刻なものであった。Y子の不安や学業成績、問題点などは次のようにまとめることができる。

- (1) 毎日家で3時間の勉強をしているが、成績は向上しない。部活動(バスケットボール部)で疲れるが、学習時間をもっと増やそうと努力している。
- (2) B高校に進学し、将来は証券会社に就職したいと考えている。B高校に合格できるかどうかひどく心配しているが、今、何をなすべきか具体的な目標と方法がもう一つはっきりしない。
- (3) 中体連大会に選手として出場できるかどうか心配しており、このことも勉強がうまく進まない原因である。
- (4) 学習の成績は2年生の学年末で中位の上ぐらいであった。3年生の4月に実施した知能検査での知能偏差値は42、学力偏差値は国語41、社会38、数学46、理科44、英語49であった。社会科を苦手としている。

2 指導の方針

- (1) Y子を理解し、適切な指導をしていくために、家庭学習の記録と日常生活の日記を書かせる。
- (2) Y子との面接相談を週に1回もつようにし、Y子の話しに耳を傾けながら、Y子の不安を和らげていく。
- (3) Y子の家庭学習の計画やその実施状況を点検し、励ましなが家庭学習の改善を図っていく。
- (4) Y子が希望しているB高校が志望校として適切かどうか、Y子の今後の成績などをみながら検討していく。
- (5) 学級で勉強会を実施し、学級全体が意欲的に学習できるような雰囲気づくりに努める。

3 指導の経過

- (1) 「勉強が手につかない……」 〈5月中旬〉

Y子のこのごろの日記に「部活のことが気になって勉強が手につかない……」「このごろ何をやっても××です……」というようなものが目立つようになってきた。さらに、放課後の面接で、自分は選手として中体連大会に出られないのではないかという不安を訴えてきた。5月のはじめごろから、補欠として練習させられているというのである。3年間何のためにきびしい練習に耐えてきたのかわからないといって泣きだしてしまった。

Y子のように選手として出場できない生徒がほかにも何人かいるということだったので、このことについて学級指導の時間で次のように指導した。「部活は何のためにやっているのか、自分の心と体を鍛えるためのものではないのか。選手として出るとか出ないとかは大した問題ではないのだ。部活へのがんばりは必ずこれからの勉強や人生に役立つものだ。今はみんなが部活に熱中しているときだから、家で勉強時間は減ってもしかたがない。」

その後、何回かY子と面接をくり返すことになったが、大会直前の日記にこう書いている。「私は自分がレギュラーになりたいために、友だちが失敗するように何回か思いました。この前の先生のお話を聞いて、自分が情けなく思うようになりました。きたない根性をもっている私だと思いました。レギュラーになれなくとも最後まで全力を出して練習します。心が少し楽になりました。今日からまた勉強ができそうです。」

(2) 家庭学習の改善 〈6月～9月〉

① 学習の時間帯の指導

Y子の5月までの家庭学習の時間帯は、部活動で疲れるからといって、夕食後寝て10時ごろからはじめ2時間ぐらいやって、朝また1時間ぐらいやるというものであった。これまでも、この時間のとり方が決して好ましいものではないことを指導してきたが、このままでは、十分に体を休めることができないこと、起きた直後は勉強の能率が上がらないこと、朝また早く起きなければならないという気持ちが、さらにあせりにつながっていることにY子自身も気がつき、勉強する時間帯を8時から11時までとすることにした。6月、7月はなかなか守れず、前にもどるようなことが何回もあったが今は定着しているようだ。

② 学習方法の指導

Y子の家庭学習は、宿題を終わしたあと、学校から与えられている五教科のテキストを使っての勉強が中心であった。不得意な社会科の勉強について聞いたところ、大事なところに印をつける、基本問題をやる、答合わせをしてまちがったところを直し暗記する、ということであった。ほかの教科もだいたい同じやり方であった。

そこで、社会科の教科担任とも相談して、次のような勉強方法を考えさせてみた。⑦「要点と整理」のところから重要だと思われることを自分のノートにまとめる。⑧基本問題を重点的にやり、わからないところは、教科書、地図帳、年表などを用いて調べる。⑨答合わせをする。⑩まちがったところはもう一度調べる。⑪それでもわからないときは、次の日学校で友だちや先生に聞く。⑫テストの前にもう一度ノートやテキストでまちがったところを見直す。

はたしてどのくらい実行できるか見守っていたが、だんだんと職員室に来てはそれぞれの教科担任へ質問をしている姿を見るようになってきた。しかし、社会科は相変わらずである。面接をともし「今に必ずよくなる」といって励ましている。

(3) 学級での勉強会の実施 〈9月～2月〉

みんなで助け合って学習していこうということで、週2回、朝自習の時間に、テキストを中心に勉強会をすることにした。家庭学習でわからなかったところをお互いに勉強し合おうというものである。はじめは教科を指定してみたが、自分がやりたい教科ができないということで、今はどの教科をやってもよいことにしている。Y子も社会科を中心にわからないところを真剣に聞いている。成績が上位の生徒の中に、自分の勉強ができないという不満が出てきたが、人に教えることはさらに自分の知識や理解を確かなものにすることができるものだとして、お互いに積極的に教え合うことを勧めている。

10月からは、各班で作成した問題に学級 みんなが取り組む勉強会がはじまった。Y子も数学の問題を作成してみんなの前ではこらしげに解答を発表していた。朝の勉強会の時間が足りないようなので、終わりの会などの活用も考えてみなければならないと思っている。

(4) Y子の志望校 〈11月～1月〉

11月下旬、Y子は次のような日記を書いた。「私の希望している高校はただ一つB高校。小学校のときから決めていた。その学校を卒業して〇〇証券会社に就職することが私の夢だったのだ。しかし、今日はショックだった。今日渡されたテストの結果はこのざまだ。たしかに中間テストや期末テストは少しは上がったが、実力テストはいつもこうなのだ。私には実力がないのだ。2年生の悪いときに逆もどりだ。はっきり言って、もう勉強はいやだ。これまで教えてくれた先生方や友だちに申し訳ない。父母も心配していた。」

この日記を読んで、担任として今後Y子をどのように指導していいたらよいか、途方にくれてしまった。その後の面接も重苦しいものであった。教室でのY子の勉強も元気がなかった。もっと早い時期にY子の志望校を変えてやるべきだったのか。しかし、なんとかしてY子の希望を担任としてもかなえさせてやりたいかった。

12月上旬、学年会でY子の志望校について話し合った。結論は志望校の変更を勧めるということであった。これまでも、何人かの生徒が、成績が悪かったからといって志望校を変更してきている。はたしてY子は志望校を変更するだろうか。

その後2回はどの実力テストを実施したが、結果は同じであった。12月中旬、夕方、足どりも重くY子宅を訪問した。証券会社に入るには必ずしもB高校でなければならないということはないこと、同じ商業系のA高校に進学すれば、通学に要する時間が少なくなり、勉強が余計できること、A高校ならば上位の成績で、余裕をもって勉強できること、などをA高校の学校案内書を見せながらY子と父母に話をした。父母は納得したが、Y子はただだまって聞いていた。Y子にとって、B高校進学は固く決意していたものであっただけに、私の話しはとてつらく思えたことだろう。

数日後、本校を卒業しA高校に進学している生徒に電話してみた。楽しく充実した高校生活を送っており、Y子に学校の様子を詳しく話してみようかということであった。

12月下旬、父母とY子の了解を得て、卒業生を伴ないY子宅を再度訪問した。卒業生は「Y子さんならば、うちの学校で本気になって勉強すれば、必ず〇〇証券会社に就職できるはずだ。Y子さんと同じくらいの成績の人がすでにその会社に就職しているよ。ただし、3年間まじめに勉強すればね。」と語ってくれた。

1月に入ってまもなく、Y子の母より、Y子がまた勉強をはじめたという電話をもらった。

1月中旬、本人とY子の父を交えた三者面談により、A高校を受験することに決定した。私立高校は併願しない。

4 指導の結果

Y子の成績は相変わらずである。不得意な社会科の向上も目立つほどのものではない。しかし、それは他の生徒と比較してのことであって、以前のY子と比べれば格段の進歩をとげている。この1年間でY子はさまざまな体験をおとし、実に多くのことを学んだ。部活動での人間関係、学習の方法友だちや先生方の思いやり、これらはすべてY子のこれからの人生に大きな影響を与えていくだろう。

Y子は、今、A高校合格をめざして最後の追い込みの勉強に入っている。

5 反省と今後の課題

Y子の面接や日記による指導をおとし、生徒の理解や学業指導のあり方など多くのことを私自身学ぶことができた。特に、Y子と同じような生徒が学級に数多くおり、学級指導の時間をとおしてさまざまな指導ができたことは収穫であった。しかし、何かむなしいものが残るのである。それは、もしかしてY子に能力以上のものを、周りの人も、Y子自身も求めすぎたのではないかということである。指導の途中で何回かそのことに気がついてはいたものの、結局は12月までY子の可能性にけることになってしまった。志望校の変更はもっと早い段階で指導すべきであったろうか。今は学級の生徒の志望校への合格とY子のA高校合格を願うのみである。

〔 考 察 〕

Y子や学級の一人一人の生徒に注がれた指導者の愛情が伝わってくる。Y子を理解するために、指導者は日記を書かせている。この日記より指導者はY子について多くの情報を集めることができた。しかも、それを面接相談で最大限に生かしたところに注目していかなければならないであろう。生徒は、自分の不安や悩みを教師が誠意をもって取り上げてくれたときはじめて、自分の本心を日記に書くのではないだろうか。

Y子は結局志望校を変更することになったが、それに至るまでの指導者の配慮には、頭が下がる思いである。志望校を変更する際に、学習の成績が重要視されることはいうまでもないことであるが、そのような場合にはこの事例のような配慮は大いに参考になるだろう。Y子を中心とした指導ではあったがY子を取りまく学級の一人一人の生徒を大切に指導しようとした指導者の姿勢もうかがうことができる。

Y子が〇〇証券会社に入社できる保証は何もない。しかし、たとえY子の希望がかなえられなくてもY子はこれまでの担任の指導を納得してくれるにちがいない。今後ともY子をあたたかく見守っていきたいものである。

(6) 学年全体で取り組む学業指導

(学級担任と教科担任との連携を中心として)

1 学年の学業指導上の実態と問題点

学級担任も教科担任も毎日の授業のなかで、生徒の学力向上をめざし、学習態度や行動を望ましい姿に習慣化していくことに努めながらも、なかなかそうできないで悩んでいるのが実情であり、学年

経営上の課題でもある。

学年では、それぞれの担任から見た学業指導上の問題点として、現在次のようなことがあげられている。

(1) 学 級 担 任

- 学習意欲を持たせる指導
- 基本的な学習態度を身につけさせる指導
- 学習にかかわる個々の生徒の資料の整備

(2) 教 科 担 任

- 授業中における各教科での基本的な学習態度の指導
- 学習の遅れている生徒への個別指導
- 各教科の学習方法の指導と学習の悩みなどの相談

2 学業指導の改善の方針

学年全体で学業指導に取り組むためには、生徒の実態を把握し、その実態の要因を明らかにする必要がある。

問題の改善にあたっては、どのような手だてをたて、どう取り組むかを十分に検討し、共通理解にたってそれぞれの立場で指導することが、効果的な学業指導ができると考える。

そのために、次のことに力を入れて取り組むことにした。

- (1) 学業指導にかかわる生徒の実態の把握と対策
- (2) 学業指導にかかわる諸検査の活用法と資料の整備

3 取り組みの経過

- (1) 学業指導にかかわる生徒の実態の把握と対策について

ア 生 徒 の 実 態

- ① 生徒の意識調査（教科の授業のなかで、改めてほしいこと。）
 - 授業を進めるのが早い
 - 点数を発表する
 - 先生の発音がよくわからない
 - 勝手に授業が進む
 - 特定の人だけに発表させる
 - 先生を好きになれない
 - 授業についていけない
 - 間違うとすぐ怒る
 - 授業がおもしろくない
- ② 授業中の気になる生徒の態度（教科担任があげた授業中に見られる心配な行動）
 - ベルがなくても席につかない
 - 学習用具の貸し借りがある
 - 学習用具としてふさわしくないものをもってくる
 - 忘れ物が多い
 - 学級委員の号令の声かけが低い
 - 姿勢が悪い
 - 話の聞き方が悪い
 - 発表のし方を知らない
 - 指示をしているのにすぐさわぐ
 - 教室への移動のし方が悪い
 - 机に落書きが目立つ
 - 発表を間違うとすぐ笑う
 - 発表をした生徒を冷やかす

生徒の実態をみると、授業に対する生徒の意見や要望などは、教師の指導法にかかわる事項が多く、授業中での基本的な授業態度の指導が手薄になっていると思われる。また、授業中の気

になる生徒の態度については、学級経営や学業指導が徹底していないためと思われる。

イ 実態にもとづいた手だてとその取り組み

学級担任、教科担任、養護教諭との合同者会を開き、生徒の実態を知らせて改善の必要性を訴え、次のような手だてを確認し合いながら取り組むことにした。

- ① 学級担任には、気になる学習態度の改善をはかるために、学級会を開かせた。その後、学年全体の士気を高めるために学年集会を開き、各学級で決議した内容を報告させた。各学級とも「学習の心得」などを設定し、学習系の活動として「呼びかけをする」などの決議事項を発表していた。

また、学級担任には、学級で決めたことを実践しているかどうか事後指導をお願いした。

- ② 教科担任に対しては、学期一回程度、無記名で生徒の要望や意見などを調査することをお願いした。そのことが指導の反省となり、指導力の向上にもつながる。また、基本的な授業態度の指導も教科指導のなかで行うよう指導助言した。

- ③ 養護教諭には、個々の生徒の体格に合った机や椅子の高さを調べてもらい、高さの調整を保健委員の活動として、取り組ませるようお願いした。

- (2) 学業指導にかかわる諸検査の活用法と資料整備について

毎朝、4月に実施している知能検査や学力検査の結果は、あまり活用されていない現状にある。そこで、学級担任や教科担任に個々の生徒の学力の実態を把握させ、個別指導の資料として活用させるために、学級の実態を一覧表に表わす方法を試みた。

作成にあたっては、表の作り方や活用法について、学級担任と教科担任との合同研修会の形をとった。

ア 次の図は、各自の知能から期待できる総合学力偏差値と各教科の学力偏差値を比較するために作成した表である。

イ 表の見方と活用法について

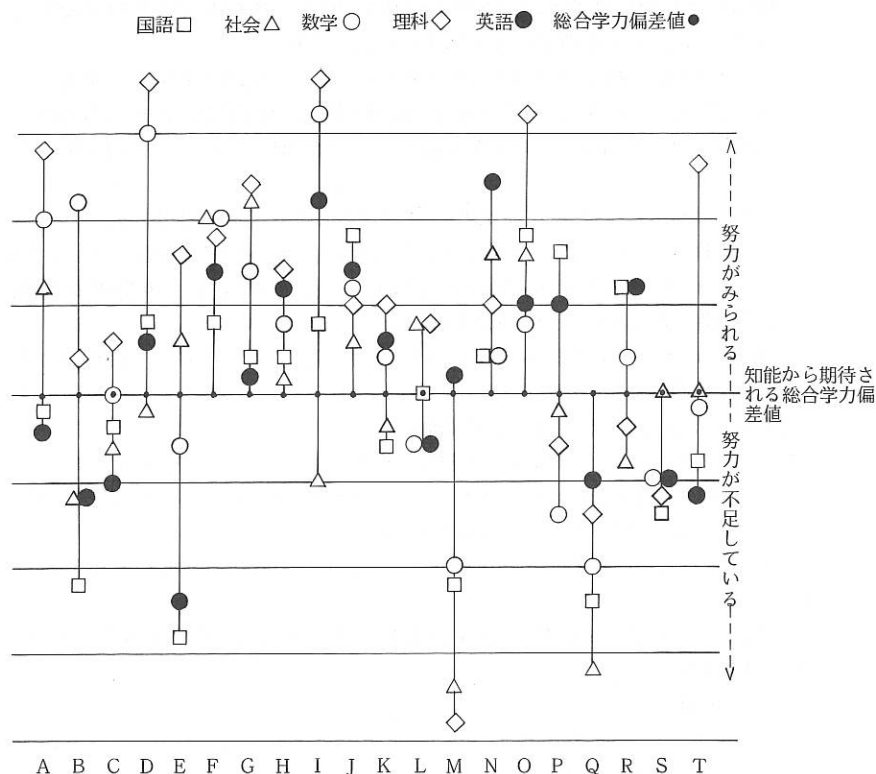
- ① B、E、M、P、Q、Sの生徒は、持っている能力をほとんど発揮していない。このように表れる生徒は、必ず悩みをかかえていることが多い。
- ② 個別指導に利用し、特に、期待される総合学力偏差値より低い生徒については、その原因を探り、それを取り除いてやる必要がある。

また、Eのような生徒には、理科と社会科と同様に、他の教科も克服できることなど、自信を持たせるようにする。

- ③ Oのような生徒には、さらに力をつけるように励ます。

- ④ 教科担任には、教科部会で領域ごとに分析し、学年全体の傾向を把握し、教科指導の参考にすよう勧めた。

期待できる総合力偏差値と各教科の学力偏差値の比較



4 これまでの取り組みの結果

学業指導にかかわる生徒の実態から問題点をとらえ、改善をめざして学級担任と教科担任との連絡と調整をはかってきた結果、教師が足並みをそろえて取り組むようになってきたと思われる。

2学期の学級担任と教科担任との定例会では、下位生徒の学力向上をめざし、「定期テストの再テスト、再再テスト」を計画し、実施している。

- ① 対象者……定期テストで成績のふるわなかった生徒（59点以下の生徒）
- ② 再テスト・再々テストの1週間前に学習会を持ち、グループ学習や個別指導を行う。
- ③ 教科担任者が学級担任、部活動顧問と連絡し合って放課後実施する。

〈例〉 ……数学の再々テストに挑戦したB子の日記から……

今日は数学の再々テストに挑戦しました。私は、とても数学が苦手なので今回も不合格だったらどうしようと思い、必死で勉強をしました。恥ずかしかったのですが、数学の先生に証明のところを聞きに行きました。

これまで、あんなに親切に教えてもらったことはありませんでした。テストを受けても合格の自信はありませんでしたが、とにかくこれまでより、多くの問題を解くことができました。

翌日の朝、担任の先生が走ってきて、「B子75点合格」と大きな声で知らせてくれたときは、本当にうれしかった。あの時の担任の先生の喜んだ顔は忘れることが出来ません。自分にもやればできるとなったので、これからがんばります。数学の先生ありがとう。

B子の学力は、期待できる総合力から見て低く、新成就値がマイナス13である。

数学の教科担任に、B子の学習の様子を聞いてみると、すでに、学級担任が家庭環境や家庭学習の実態、学習の悩みなどの資料をそろえ、B子にどのような指導をすれば良いか相談していた。

上記のように、教師間の連携がしだいに見られるようになってきている。また、次のような成果も見られるようになってきた。

- ・ 生徒一人一人の個票に、学業にかかわる資料をつけ加え整備された。
- ・ 担任による教育相談や学業相談も多くなり、個々の生徒とのふれあいが見られるようになった。
- ・ 学級指導や道徳指導の資料を互いに交換し合ったり、経験の豊かな教師に相談するようになった。
- ・ 授業中、生き生きとした生徒の姿が目立つようになってきた。

5 反省と今後の課題

学業指導の充実をめざすには学級担任と教科担任が一体となって指導することがいかに大切であるかを再認識させられたような気がする。これまで、それぞれの担当者にまかせてしまうことが多く、効果をあげることが少なかったような気がする。これからは、学年主任としてのこの体験を生かしながら、後輩への指導をしなければならぬと考えている。

また、効果的な学業指導をめざして、手だてを考えて取り組まなければならないと思っている。3学期には、学級担任からの要望で、学業指導の授業研究を計画している。

〔 考 察 〕

本事例は、生徒の実態から課題を設定し、その解決に向けて学級担任と教科担任がそれぞれの立場から取り組み、効果をあげた実践例と言えよう。

取り組みの内容からは、学年主任の意図的な働きかけをうかがうことができ、リーダーシップが発揮されている。特に、学級担任が指導する学級指導における事後指導の重要性を学級担任に指導・助言したことは、適切な指導であったと言える。

とすると、教師は学年全体の中での自己のかかわり方を見失うことがあり、それぞれの担当者にまかせてしまいがちである。組織の中では、自己のかかわり方を常に考え、その中でどのように対処すればよいかと考える必要があろう。今後ともこの事例のように、学年主任としての役割を自覚し、これまでの豊かな経験を生かしながら時と場合に応じて、学級担任、教科担任、養護教諭などの間にとって連絡調整や指導助言をしなければならないであろう。

Ⅳ 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

(1) 学業指導の基本的な考え方について

- ① 従来の学業指導は、学業不振の生徒を対象としての治療的な指導を主とする傾向が強かったように思われるが、学業指導のあり方としては、すべての生徒を対象として、現在よりもっと意欲的な学習態度や効果的な学習方法を身につけさせるような開発的な指導を主としていくことが大切である。
- ② 学業指導は、学校の教育活動をととして学校のすべての教師が行っていくべきものであるが、学級担任は生徒のことを総合的に知り、学校の教育活動を個々の生徒のうえに統合させていく立場にあるので、学級担任の行う学業指導は特に重視していかなければならない。

また、学級担任によって学級指導の中で行われる学業指導は、他の様々な活動をととして行われる学業指導を深めさせ、統合させる役割をもつことを理解することが必要である。

(2) 学級指導における学業指導の進め方について

- ① 学業指導の年間指導計画を作成し、計画的、発展的に指導していくことが大切であろう。
 - ㊦ 学級指導の中で行われる学業指導は、各学年とも、7時間程度設定していきたい。
 - ㊧ 学級指導の中で行われる学業指導の内容は、学習意欲・態度に関するもの、学習方法に関するもの、学習環境に関するものに大別できるが、これらをバランスよく配置し偏りのない指導が行われるようにすることが必要である。
 - ㊨ 学年の特質や時期を考慮して、主題やその指導内容を設定し、実施することが必要である。
- ② 学業指導の1単位時間の指導過程を工夫し、効果的な指導を行っていくことが大切である。
 - ㊦ 指導段階のねらいを明確にすることが授業の展開をしやすくさせる。また、生徒も理解しやすく、学習しやすいと考えられる。
 - ㊧ 指導のねらいは、実践に結びつく方法を見つけ出させることにもあるが、実践への意欲をどう育てるかにあることを理解することが大切である。
 - ㊨ 資料の選定、作成と活用が指導の効果に大きな影響を与えるといえる。ねらいに適した、身近で具体的な資料が必要となる。学級担任だけでは望ましい資料は集めにくいので、全校で情報を交換しながら常日ごろから留意して収集することが必要である。
- ③ 事前・事後指導を重視していくことが大切である。

朝の会、終わりの会やいわゆる「ゆとりの時間」を活用したり、学級指導の他の内容や学級会活動と関連させたりして、事前・事後指導をしていくことが大切である。また、放課後に時間をつくって、個別指導・個別相談へつなげていくことが必要である。

(3) 学級指導以外における学業指導の進め方について

① 学級担任による学業指導

- ㊦ 終わりの会は、短い時間とはいえ毎日行われるものであるから、計画的に運用することによって、学級指導の中の学業指導にかかわる事前・事後指導などに十分活用していきたい。

- ㊧ いわゆる「ゆとりの時間」や放課後などに設定された学級の日（学級優先の日）等についても、計画を立てて学業指導の時間を確保し、学習計画の作成、調査、教え合い学習などに活用していきたい。

- ㊨ 面接相談等個別指導をできるだけ進めて、生徒の学業についての悩みや不安の解消にあたっていきたい。時間的余裕がないという困難が絶えず伴うが、清掃や食事を共にするなど機会や場を見つけていくことができよう。絶えざる学級担任の工夫と計画によって、少しでもその困難をのりこえていきたい。

- ㊩ 生徒の日記、作文やノートなどを点検しながら、学級担任が感想や励ましの言葉を書き入れて指導していくことは、効果のある個別指導といえよう。

- ㊪ 家庭との連絡を密にし、学校や担任の学業指導についての考えを理解してもらうことも、生徒一人一人の指導のうえで大きな影響力をもってくる。

② 教科担任による学業指導

教科の授業の中で、教科担任は教科の内容の学習指導のみならず、学習の意義・目的や学習の仕方などをくり返し指導するなど、学業指導にもあたっていくことが必要である。

③ 学級担任と教科担任との連携について

- ㊦ 学級担任と教科担任との定期的な連絡会をできるだけ多くもつことが必要である。その中で生徒をいろいろな角度から観察し、学級担任と教科担任とが同じ方針、同じ姿勢で生徒の指導にあたっていけるようにすることが大切である。
- ㊧ 教科担任は、授業の中で感じた生徒の問題点について、授業観察カードによって学級担任へ知らせ、学級担任は学級の生徒の個人ごとのファイルを整備して教科担任の閲覧に供する。こんな形で学級担任と教科担任との日々の情報交換と共通理解をはかっていくことが大切である。
- ㊨ 学級担任は、生徒のかかえている学業上の悩みや問題によって、教科担任へ生徒の個別指導や個別相談を依頼するなど教科担任の力を積極的に活用して、生徒の悩みや問題の解決をはかっていくことも必要である。
- ㊩ 学級担任と教科担任とが、生徒のことで、いつでもどこでも気軽に話し合える雰囲気を醸成していくことが大切であるが、そのためには、学年主任が大きな役割を果たす必要がある。

2 今後の課題

- (1) 学級担任を中心とした学業指導の進め方を明らかにしてきたが、学業指導の効果を十分なものにしていくためには、今後さらに、緊密な協力体制のもとに、すべての教師による学校全体での学業指導をどのように進めていけばよいかを明らかにしていく必要がある。
- (2) 生徒の学校生活の中に、教科の授業は大きな時間を占めている。したがって、学業指導を行う場は様々あるが、特に教科の授業を重視しその中で学業指導をどう進めていけばよいかを明らかにしていく必要がある。
- (3) 本書で示した学業指導の指導事例は限られている。今後、もっと多くの事例を分析し、生徒の実態や問題に応じたきめ細かい指導方法を明らかにしていく必要がある。

昭和 62 年 3 月 20 日 印刷
昭和 62 年 3 月 25 日 発行

発行所 山 形 県 教 育 セ ン タ ー
〒 994 天童市大字山元字犬倉津 2515
☎ 0236(54)2155~9

印刷所 ㈱大風印刷 天童営業所
〒 994 天童市久野本 4 - 16 - 2
☎ 0236(54)5715